

東北森林管理局管内の 木材価格等について

平成27年2月25日(水)

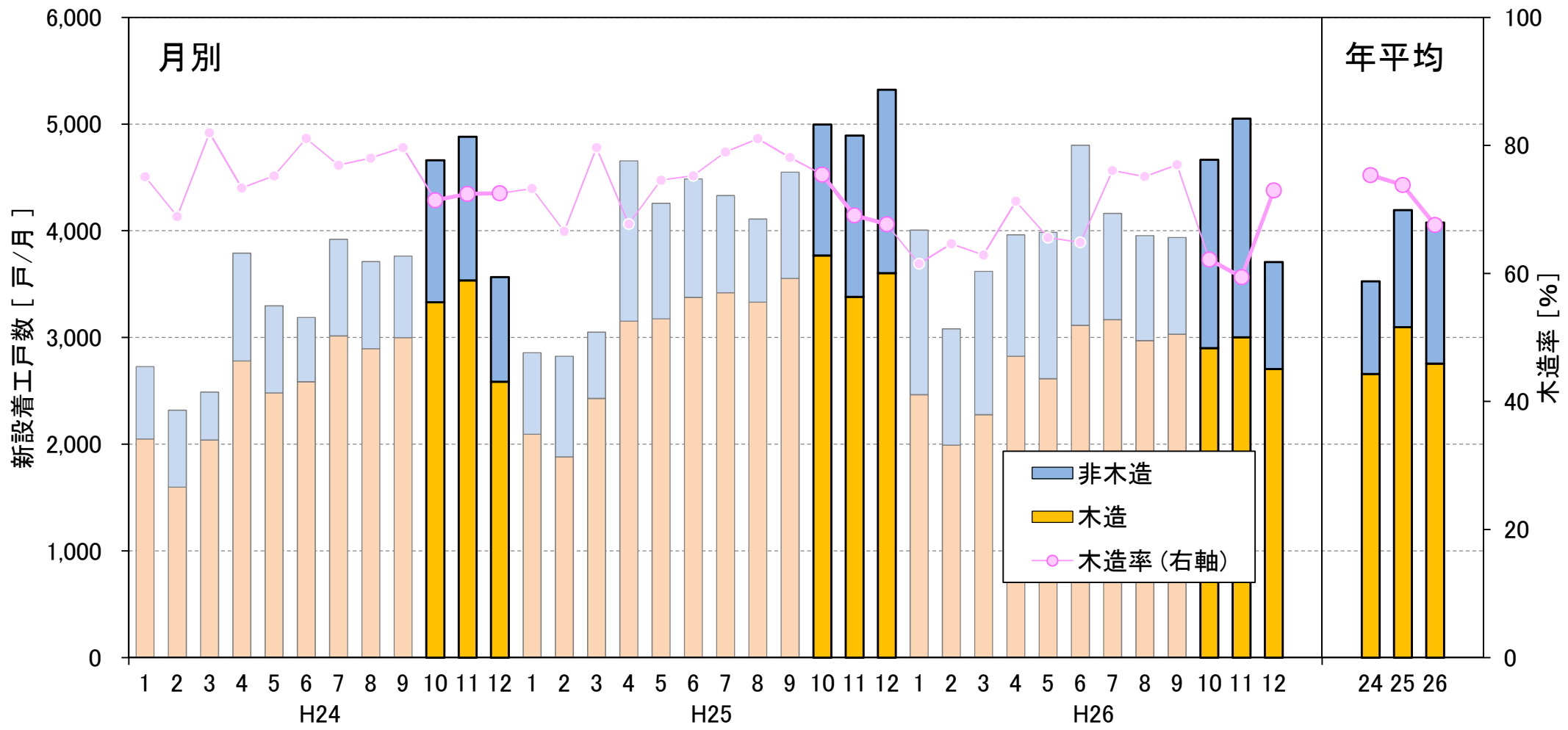
東北森林管理局

■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

○ 東北5県の新設住宅着工戸数は、平成26年は25年比－3%、24年比＋26%。
 26年第4四半期は、25年同期比－12%、24年比同＋2%。

○ 木造率は、26年は68%で、25年の74%から6%低下した。

- 年平均木造率は年々低下している。
- 着工数は、秋の需要期の後、冬場に向かって急激に落ちる傾向。
 平成26年の第4四半期は、12月まで旺盛だった25年と異なり、24年とほぼ同様の動き。

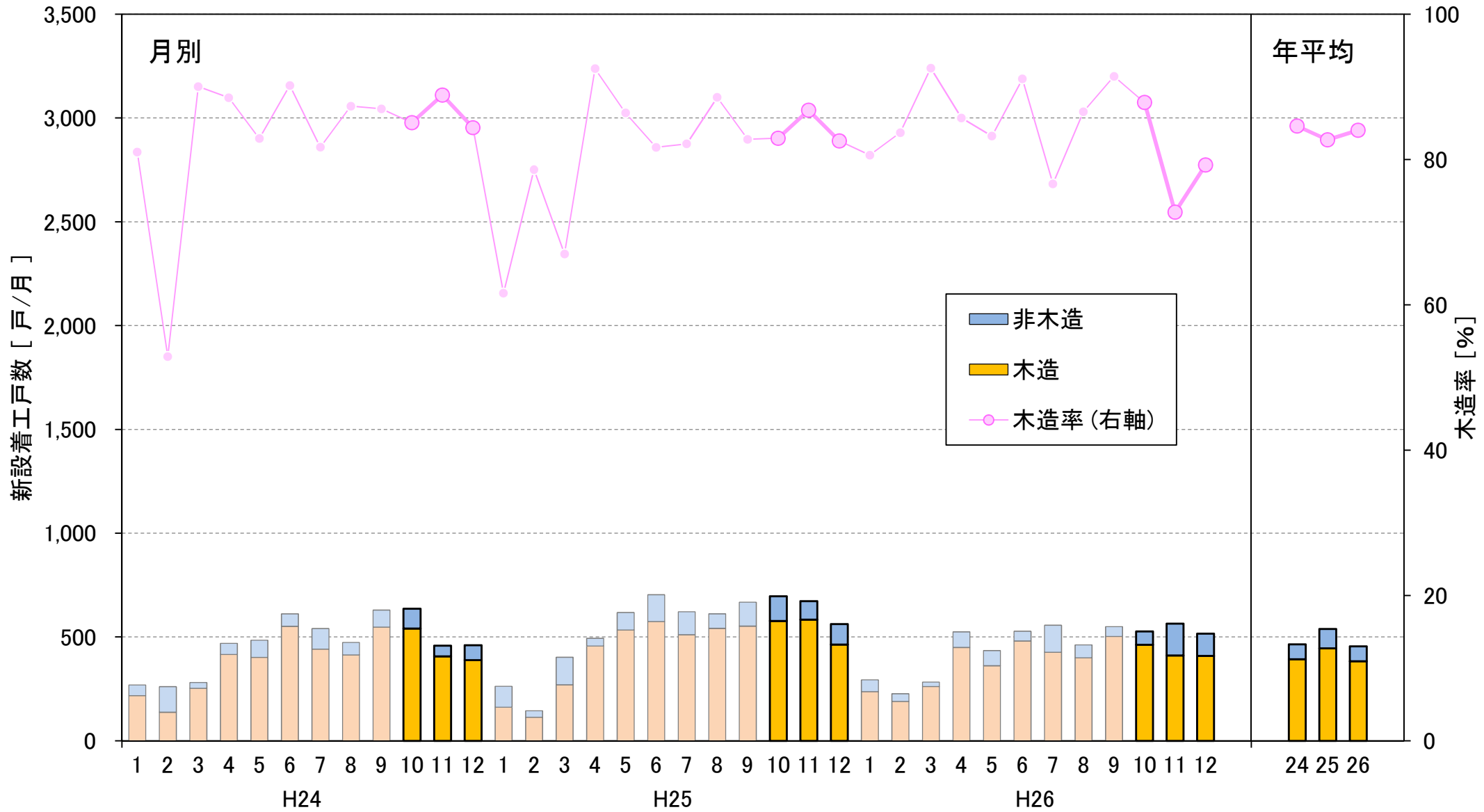


出典：国土交通省「住宅着工統計」

青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

○青森県の新設住宅着工戸数は、平成26年は4月から500戸前後で推移し、8ヶ月連続で前年比減少中。第4四半期は前年同期比-17%、24年比同+3%。平成26年は25年比-15%、24年比-2%。

○木造率は、26年は84%で、25年の83%から1%上昇した。

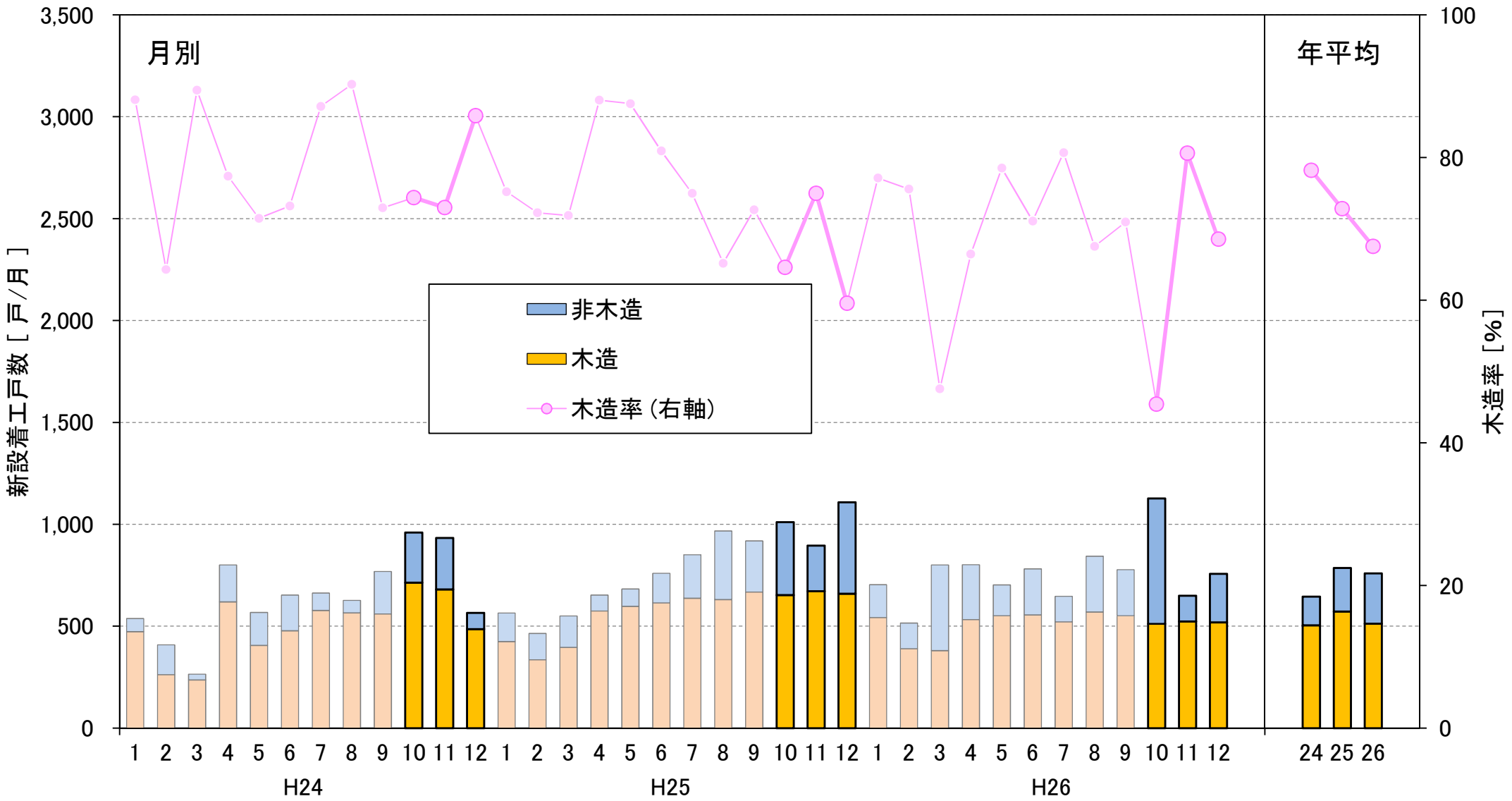


出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

○ 岩手県の新設住宅着工戸数は、平成26年は25年比-3%、24年比+18%。 26年第4四半期は、10月に過去3年で最多となったが、11月に落ち込み、前年同期比-16%、24年同期比+3%。

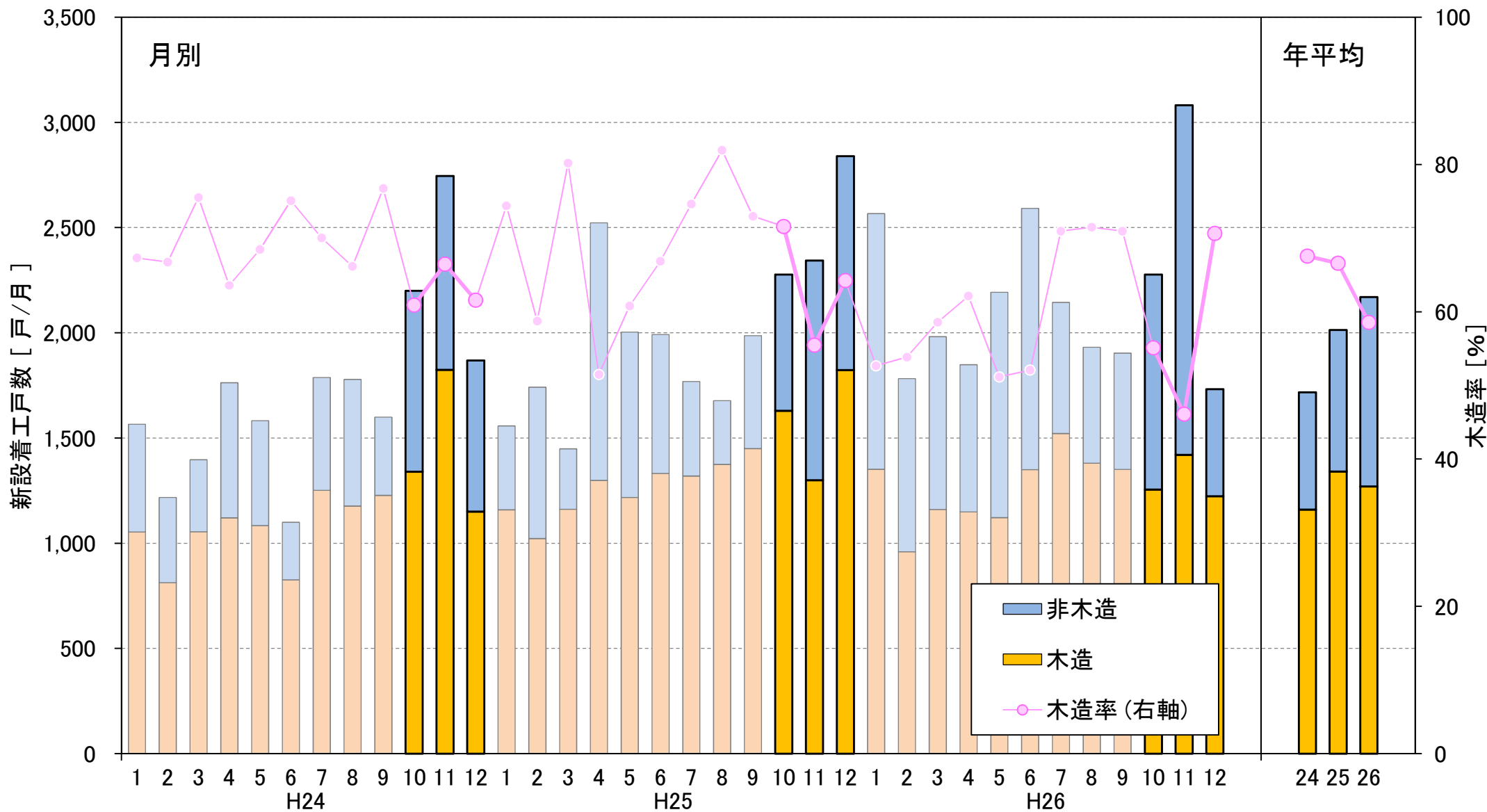
○ 木造率は、26年は68%で、25年の73%から5%低下した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

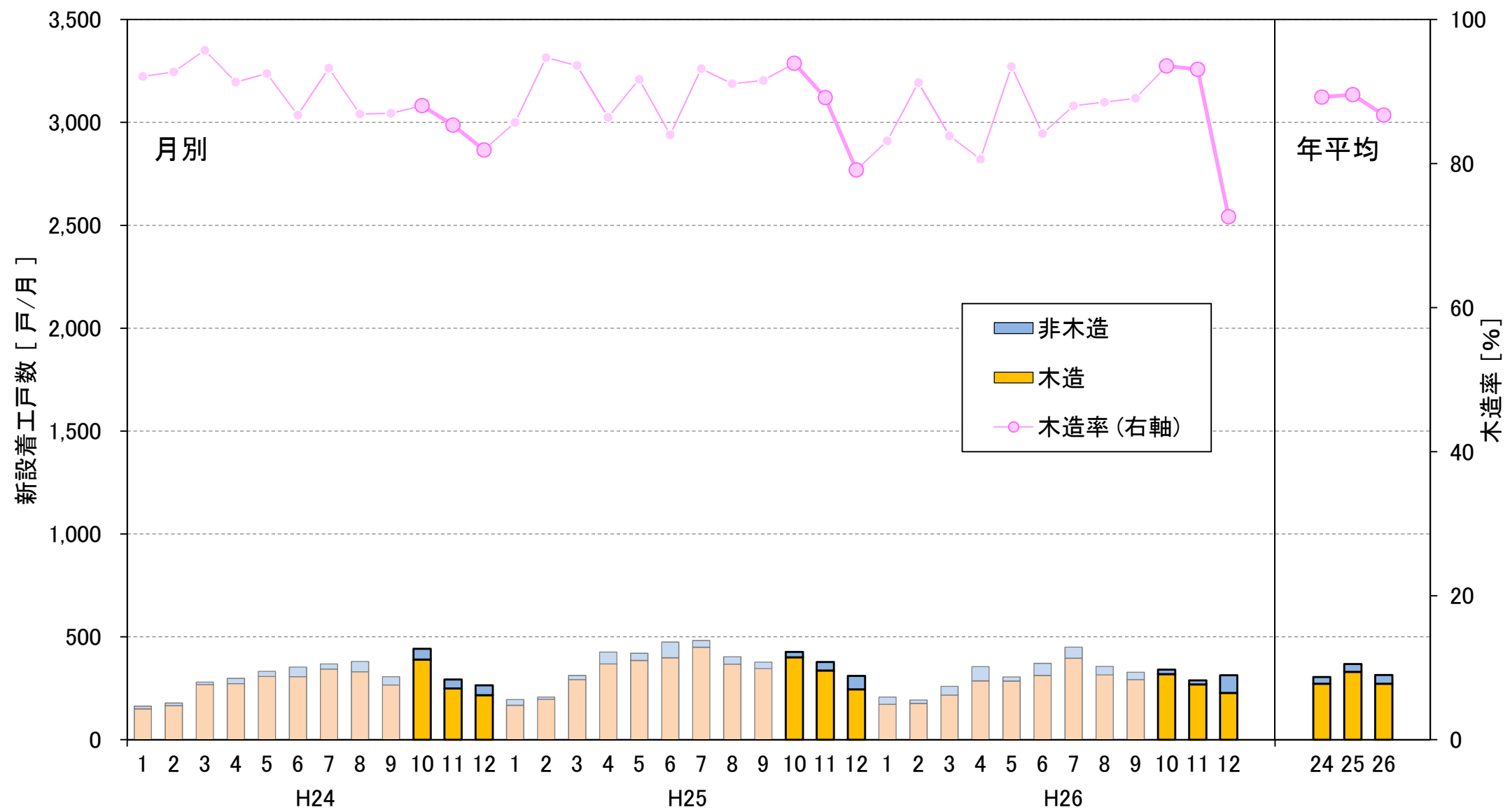
- 宮城県の新設住宅着工戸数は、平成26年は25年比+8%、24年比+26%。 26年第4四半期は、10月、12月は24年並だが、11月に過去3年で最多となったため、前年同期比-5%、24年同比+4%。
- 木造率は、26年は59%で、25年の67%から8%低下した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

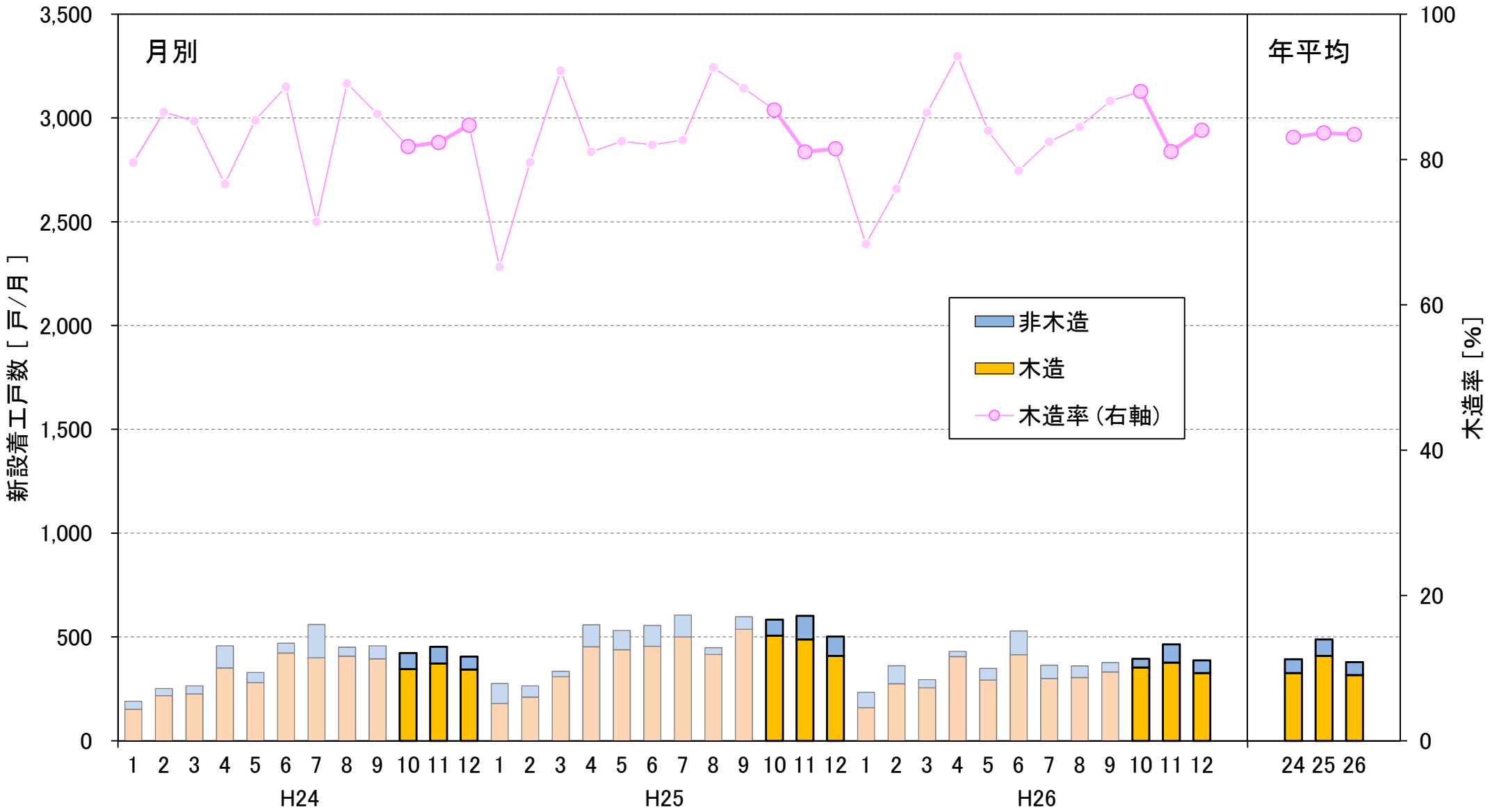
○ 秋田県の新設住宅着工数は、平成26年は25年比-15%、24年比+3%。
 平成26年第4四半期は、10月が過去2年の同月を下回り、前年同期比-15%、24年同期比-6%。
 ○ 木造率は、26年は87%で、25年の90%から3%低下した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年12月)

○ 山形県の新設住宅着工数は、10ヶ月連続で前年比減少。平成26年は25年比－22%、24年比－4%。
 平成26年第4四半期は、一昨年と同様な傾向で推移し、前年同期比－26%、24年同期比－3%。
 ○ 木造率は、26年は83%で昨年の84%から1%低下した。

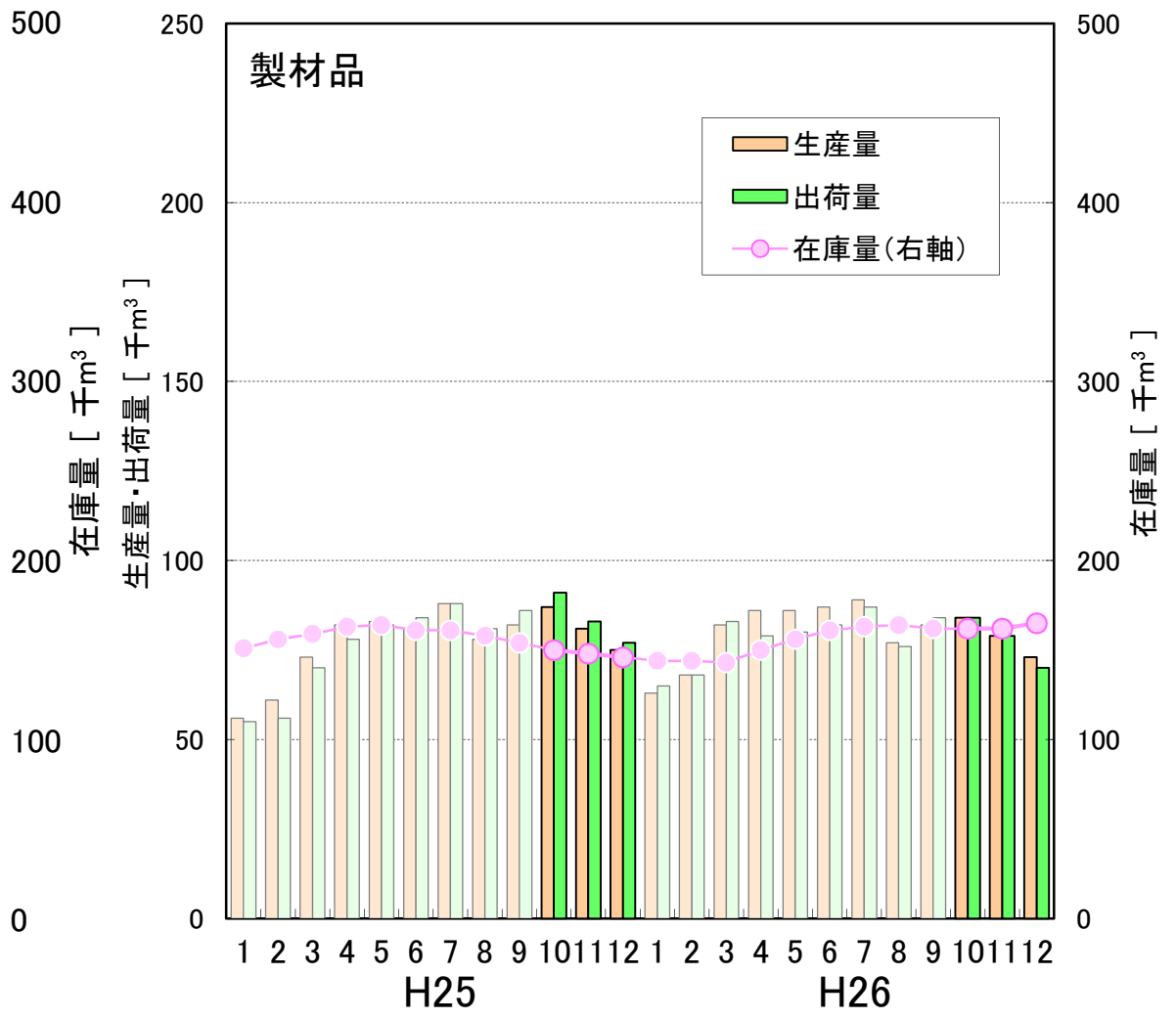
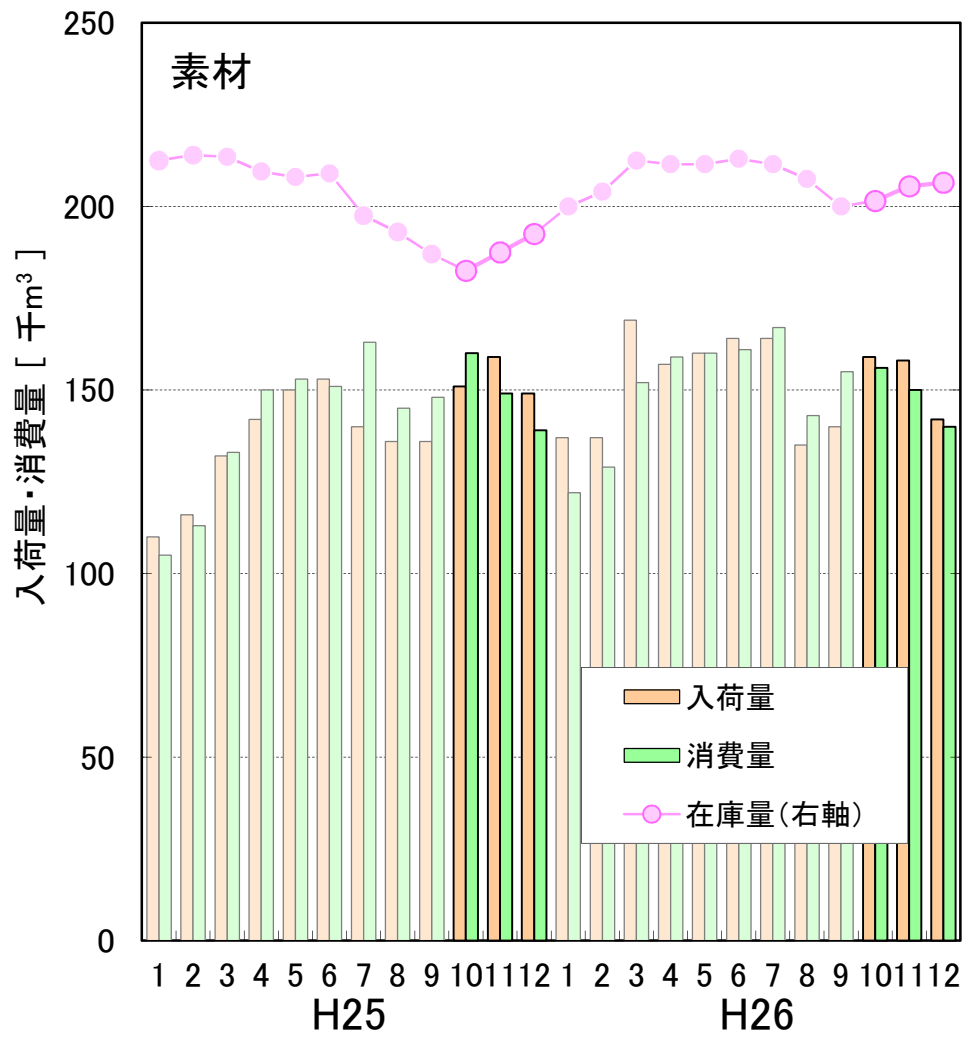


出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

- 製材用素材の平成26年第4四半期の入荷量・消費量はともに昨年と同水準。在庫量は25年同期比＋9%。
- 製材品の平成26年第4四半期の生産量は昨年同期比－3%、出荷量は同－7%、在庫量は同＋10%。

- 製材用素材は、冬に向かって入荷が減少する中、消費の減少がそれを上回り、春に向かって在庫は増加する。平成26年の在庫は10月から上昇を始め、25年1月の水準に近づいている。
- 製材品の在庫量は素材に比べて1～数ヶ月遅れて緩やかに変動する傾向。



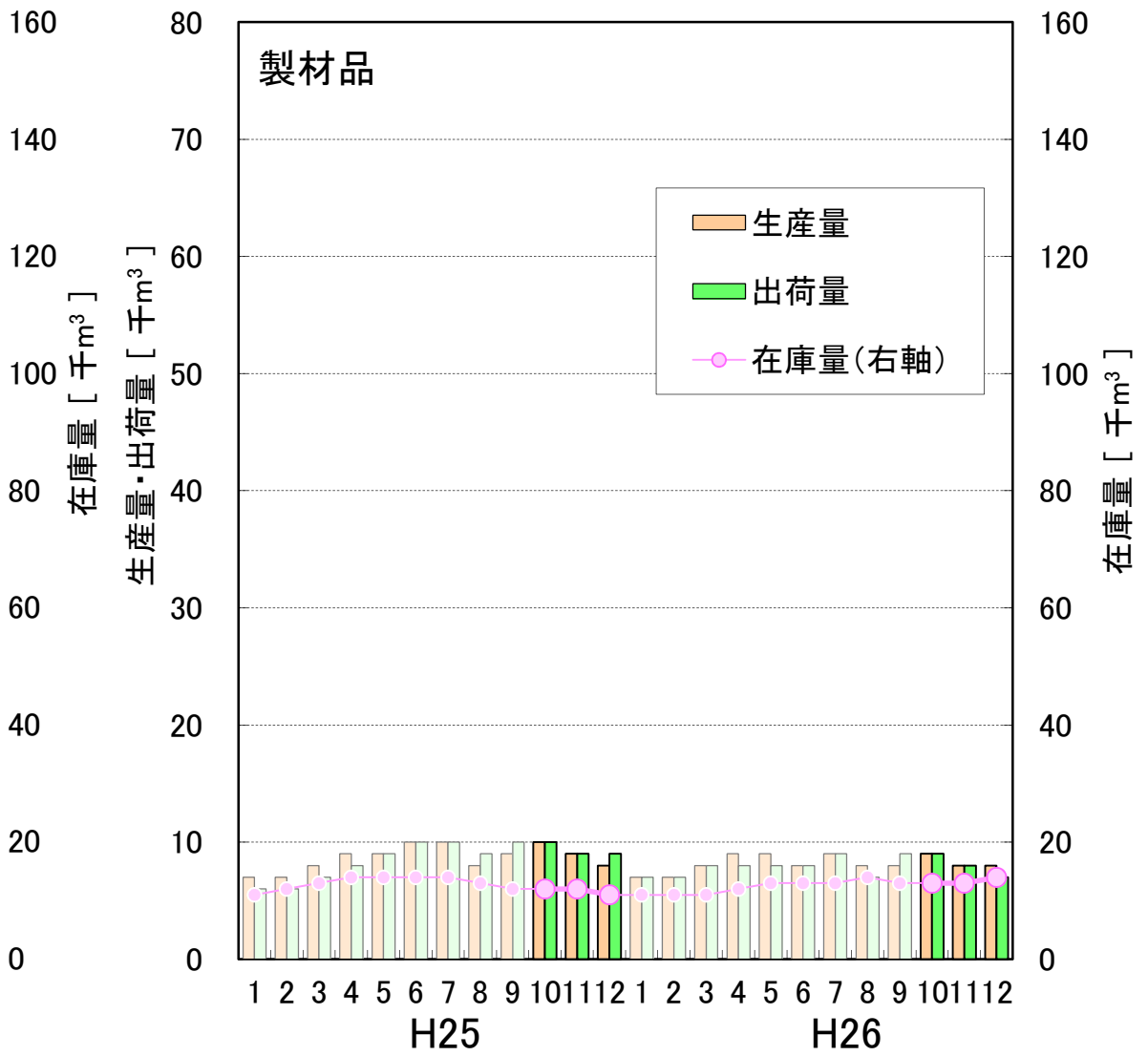
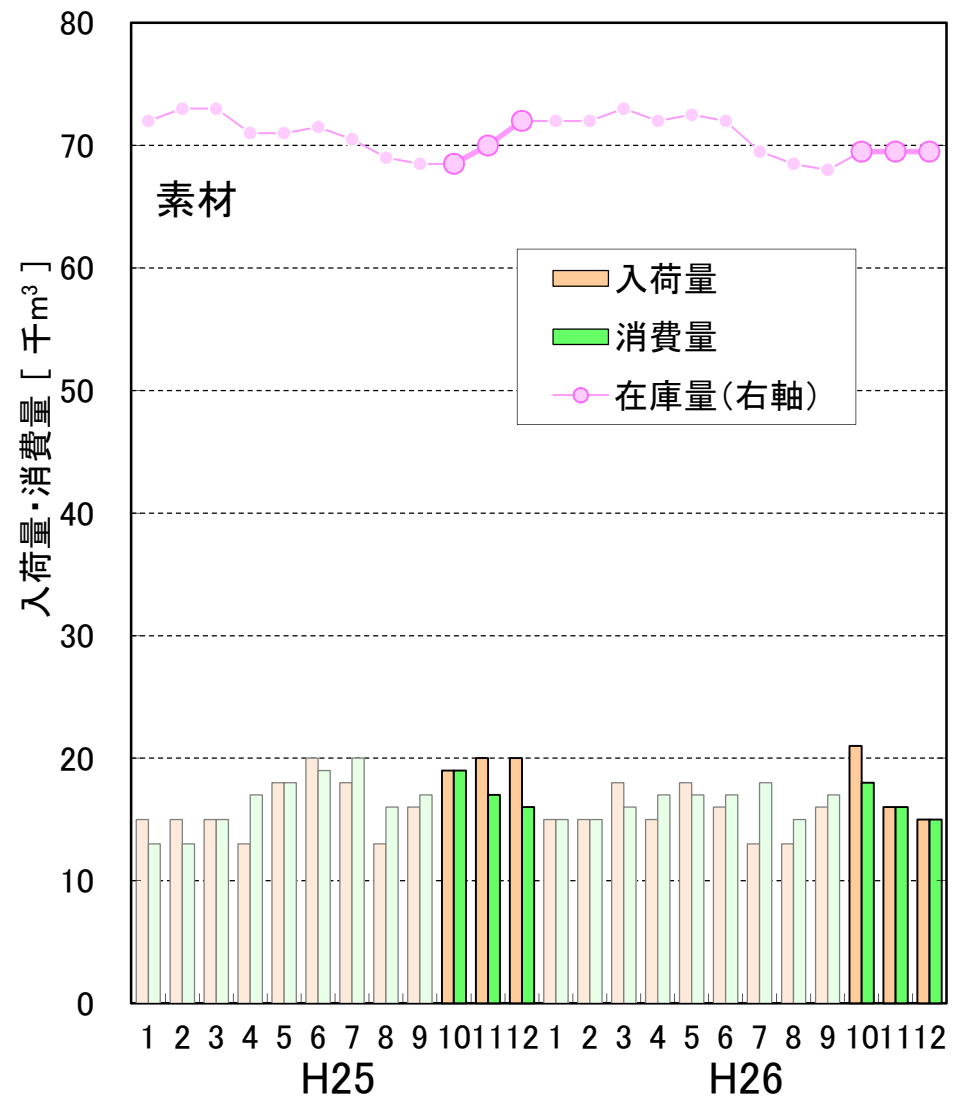
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値

青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

○ 製材用素材の平成26年の入荷量は10月をピークに減少しているが、在庫量は横ばいである。
 平成26年第4四半期の入荷量は去年同期比-12%、消費量は同-6%、在庫量は同-1%。

○ 製材品の平成26年第4四半期の生産量・出荷量は減少傾向だが、在庫量はわずかに増加傾向である。
 平成26年第4四半期の生産量は去年同期比-7%、出荷量が同-14%、在庫量は同+14%。



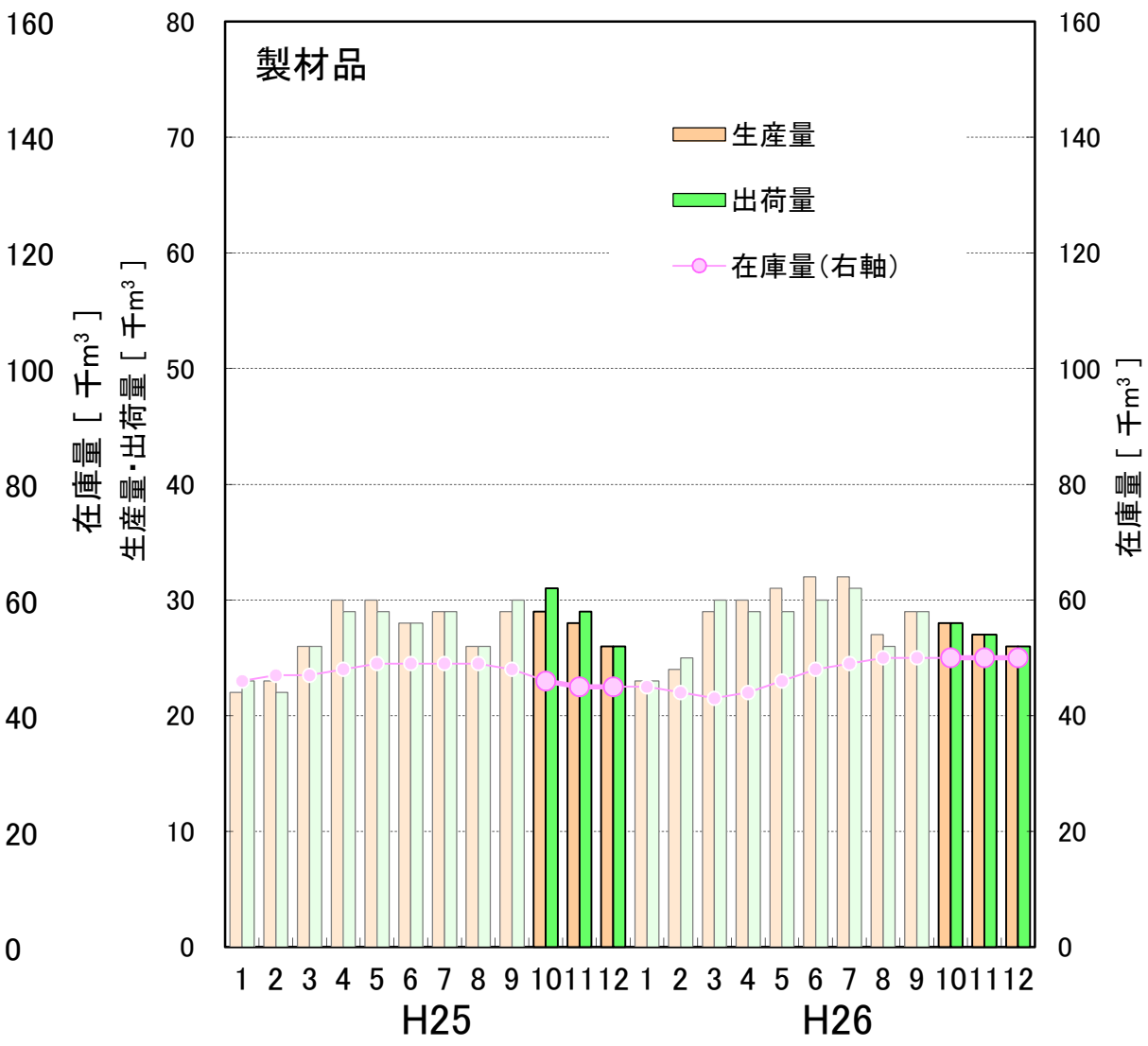
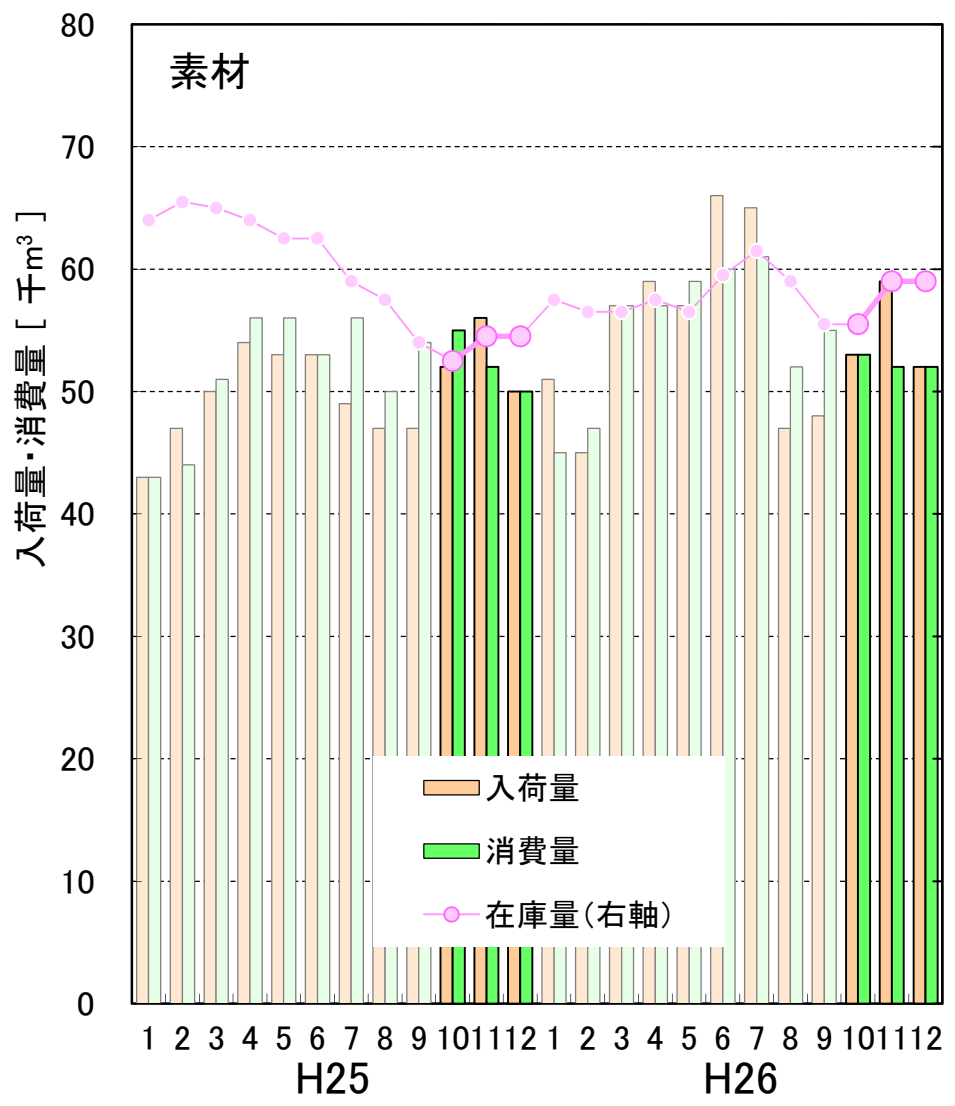
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量の推移（平成25年1月～26年12月）

○ 製材用素材の平成26年の入荷量は、6月・7月・11月にピークがあった。
 平成26年第4四半期の入荷量は去年同期比+4%、消費量は±0%、在庫量は同+7%。

○ 製材品の生産量は減少傾向だが、在庫量はほぼ横ばいである。
 平成26年第4四半期の生産量は去年同期比-2%、出荷量が同-6%、在庫量は同+10%。



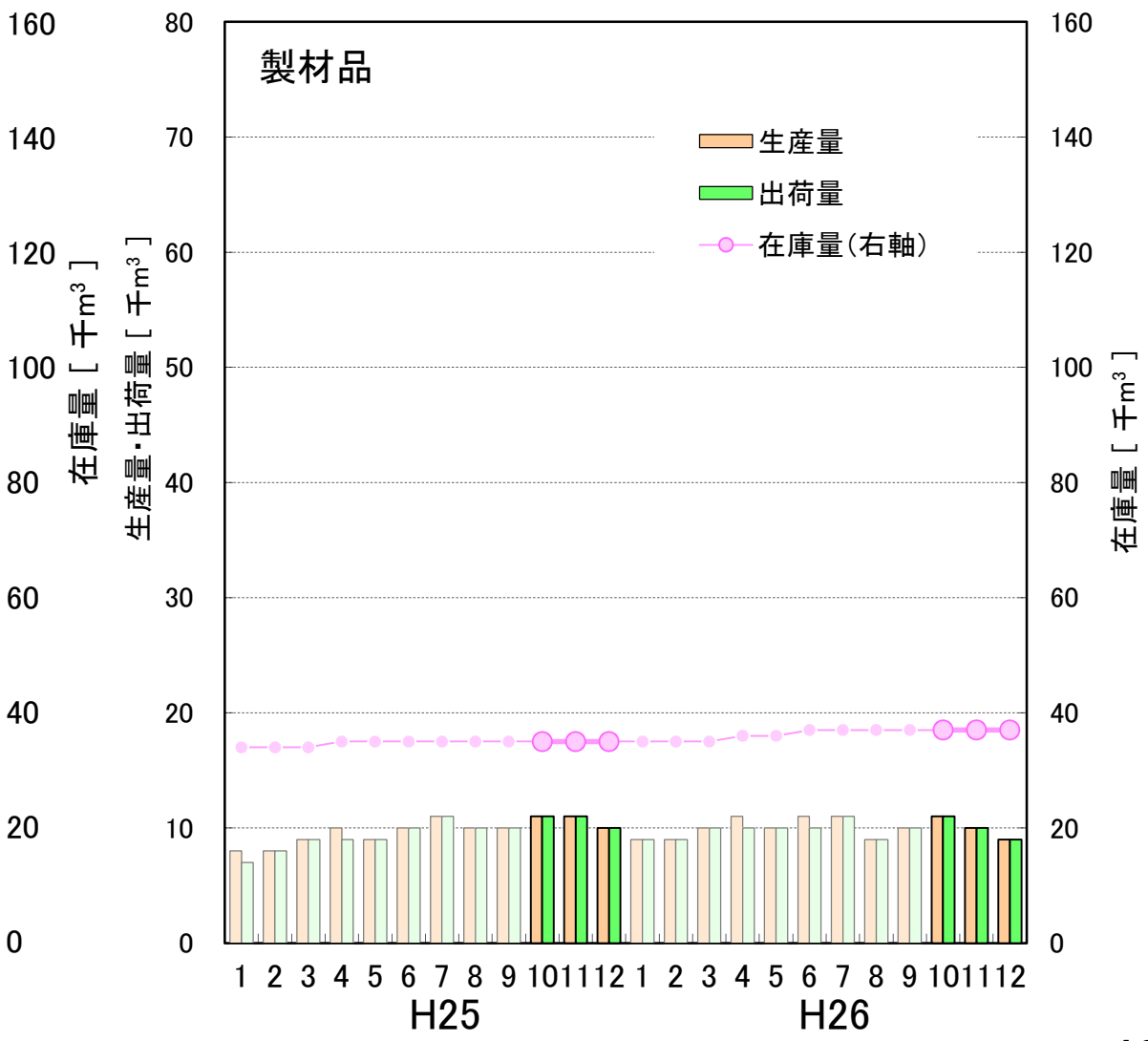
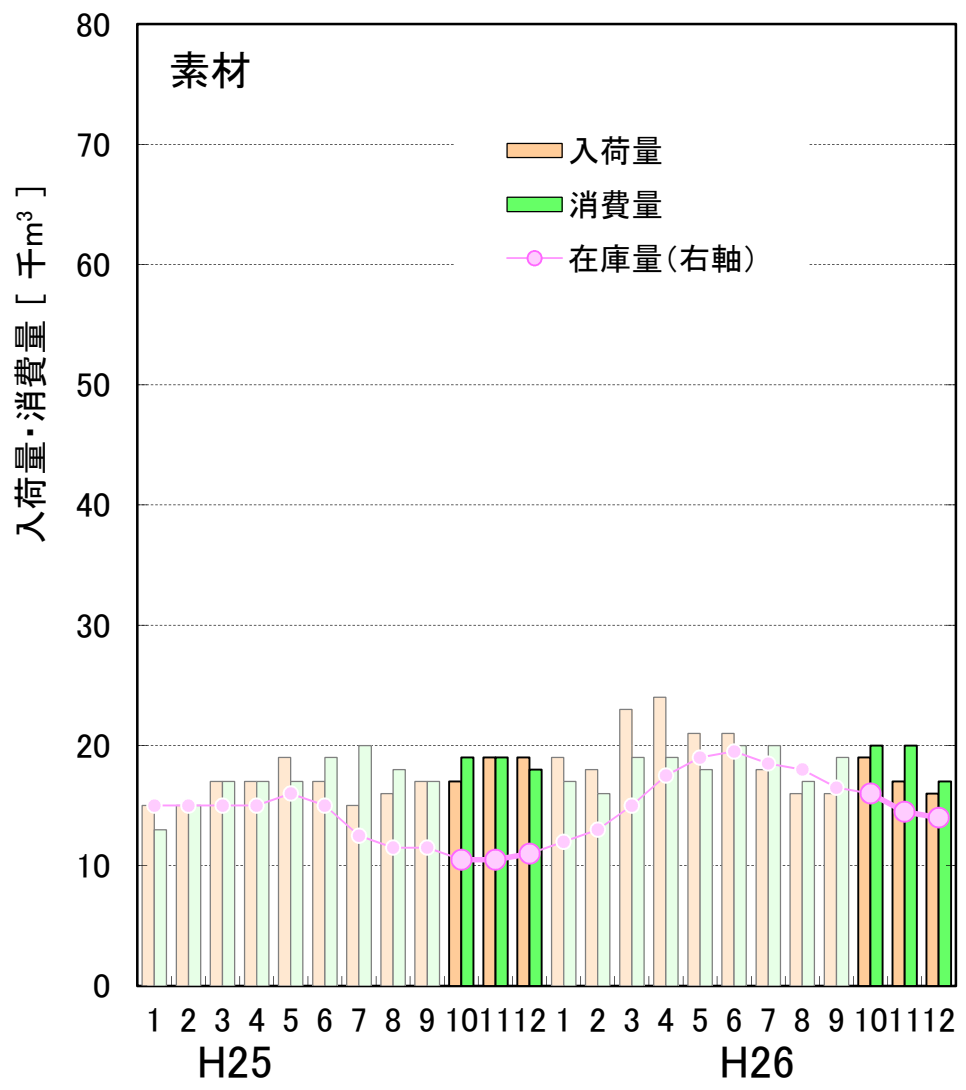
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

○ 製材用素材の平成26年の消費量は、7月以降、入荷量を上回る月が続き、在庫量も減少が続いている。
 平成26年第4四半期の入荷量は去年同期比-5%、消費量は同+2%、在庫量は同+39%。

○ 製材品は、生産量・出荷量の差が少なく、在庫量はほぼ横ばいである。
 平成26年第4四半期の前年同期比は生産量、出荷量ともに-6%、在庫量は同+6%。

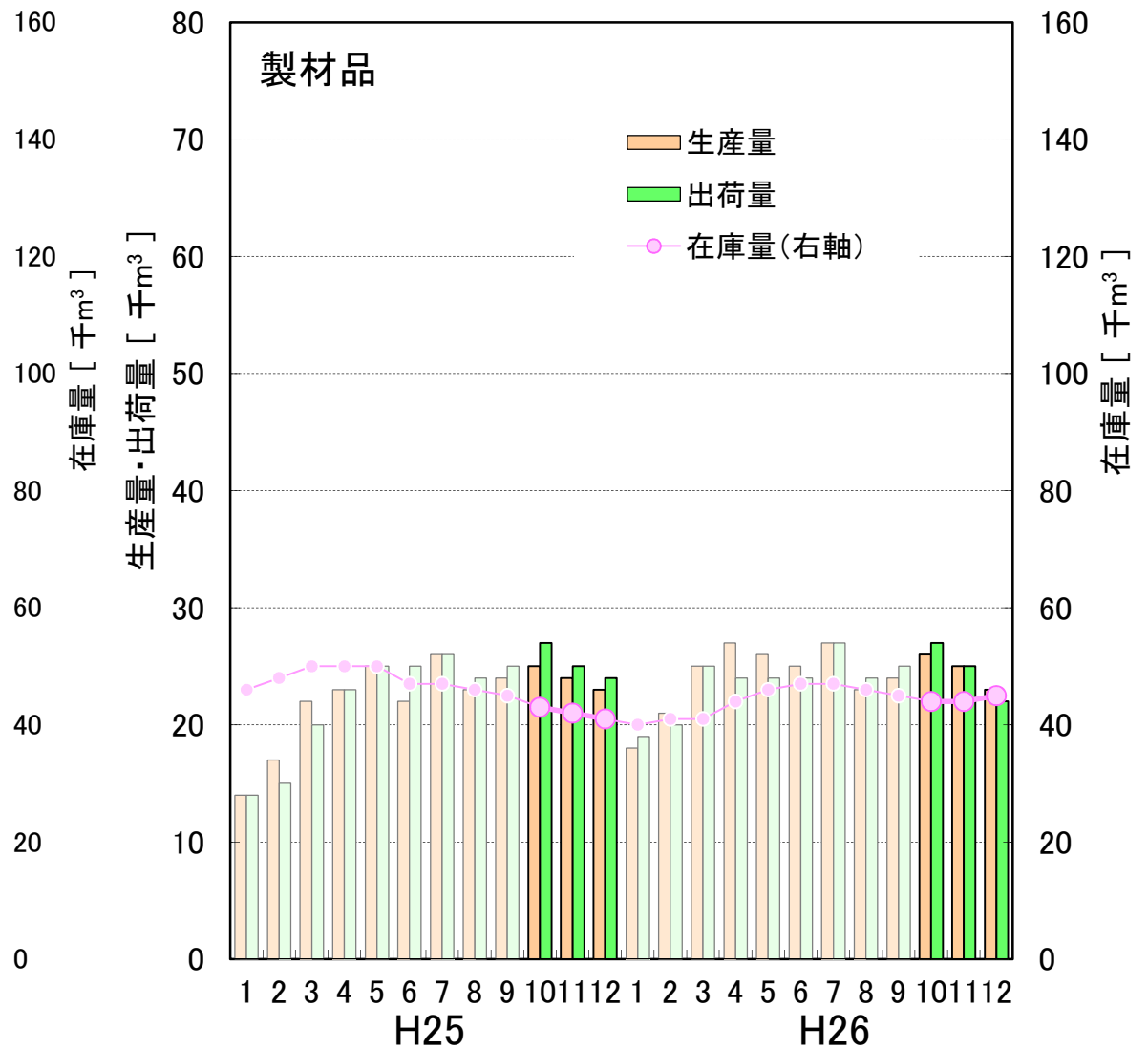
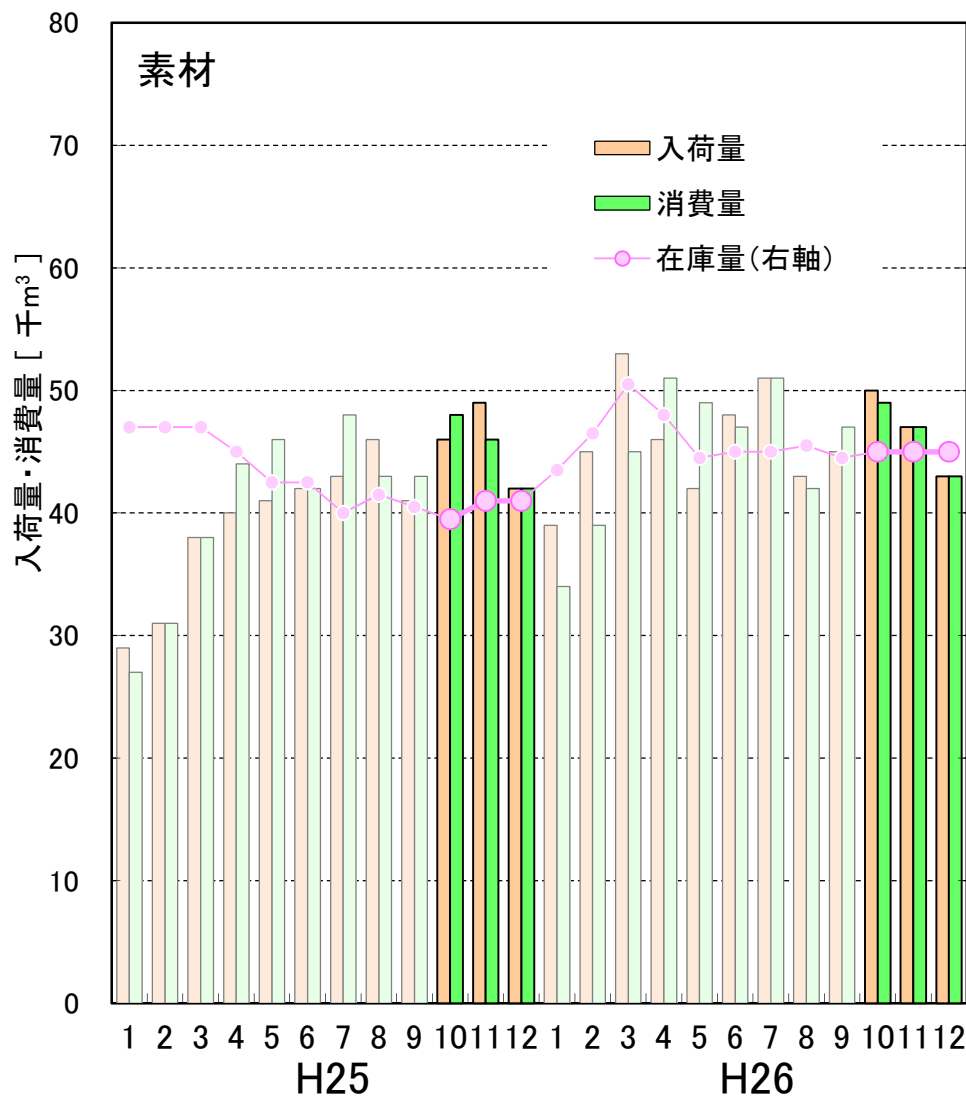


出典：農林水産省「木材需給報告書」製材統計

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

- 平成26年の製材用素材の入荷量・消費量は、6月以降ほぼ均衡しており、在庫量も横ばいである。
平成26年第4四半期の入荷量は去年同期比+2%、消費量は同+2%、在庫量は同+11%。
- 製材品の生産量・出荷量は減少傾向だが、在庫量は12月にわずかに増加した。
平成26年第4四半期の生産量は去年同期比+3%、出荷量が同-3%、在庫量は同+6%。



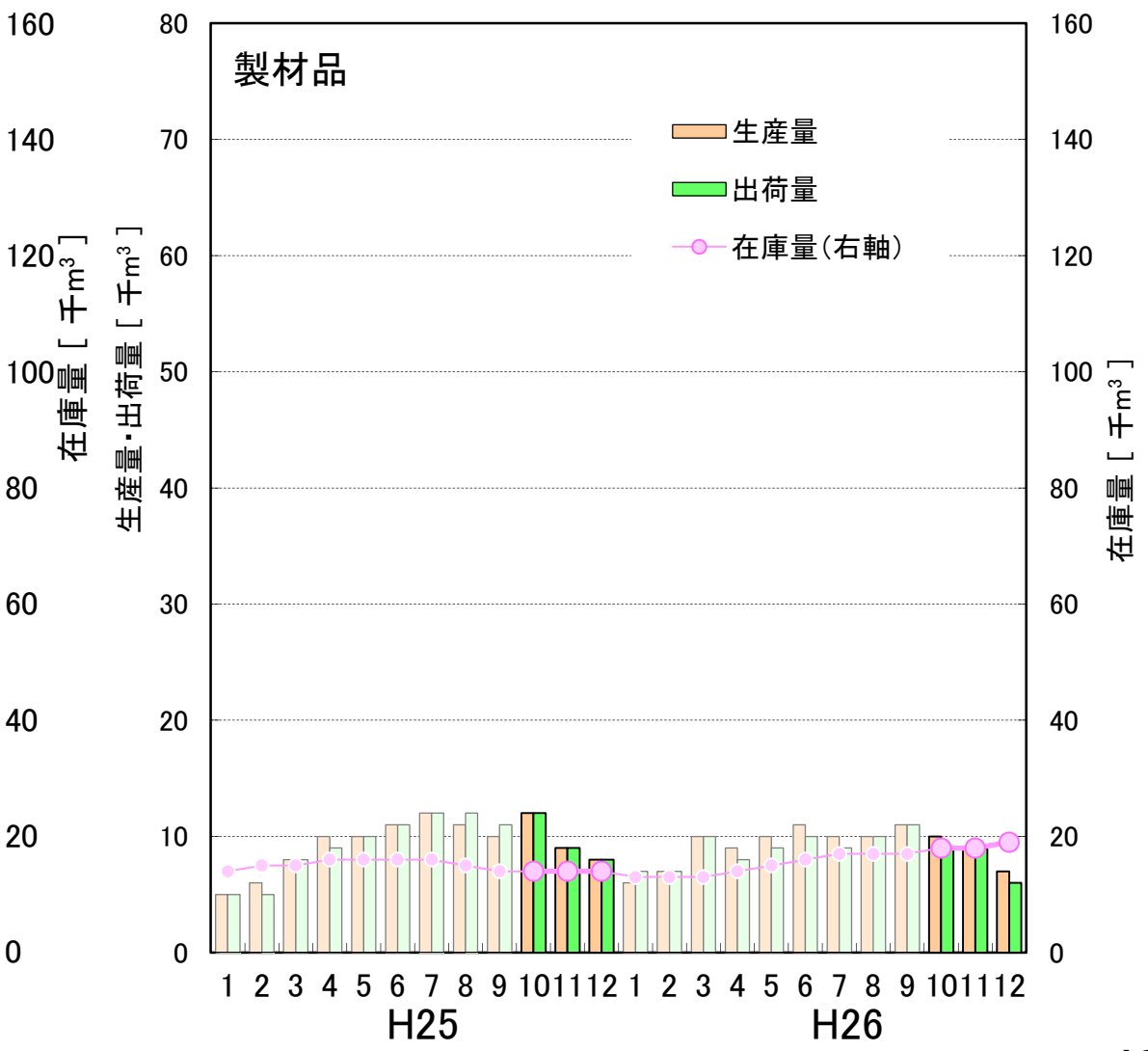
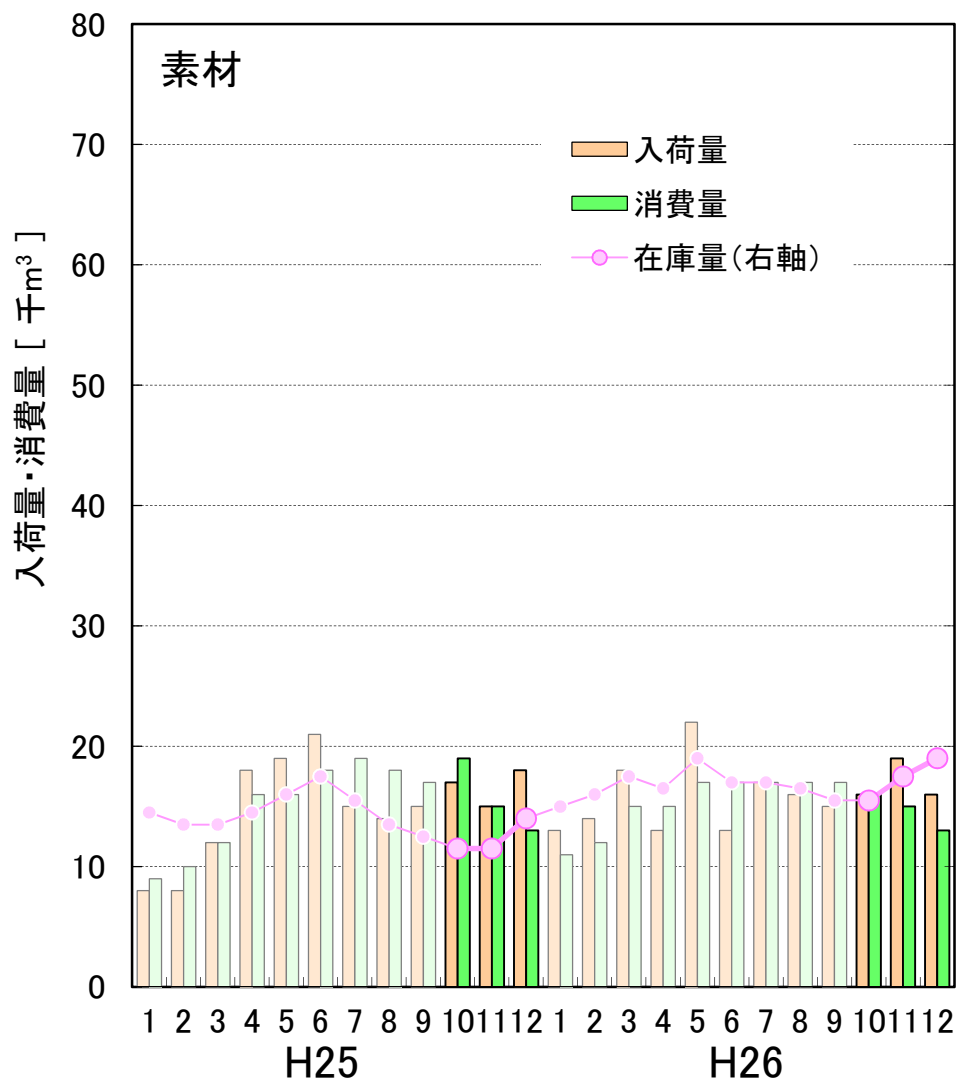
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

○ 製材用素材の平成26年の入荷量は、11月以降消費量を上回っており、在庫量が増加している。
 平成26年第4四半期の入荷量は去年同期比+12%、消費量は同-6%、在庫量は同+41%。

○ 製材品の平成26年第4四半期の生産量は去年同期比-10%、出荷量は同-17%、在庫量は同+31%。
 出荷量の減少率と在庫量の増加率は東北5県の中で最大である。

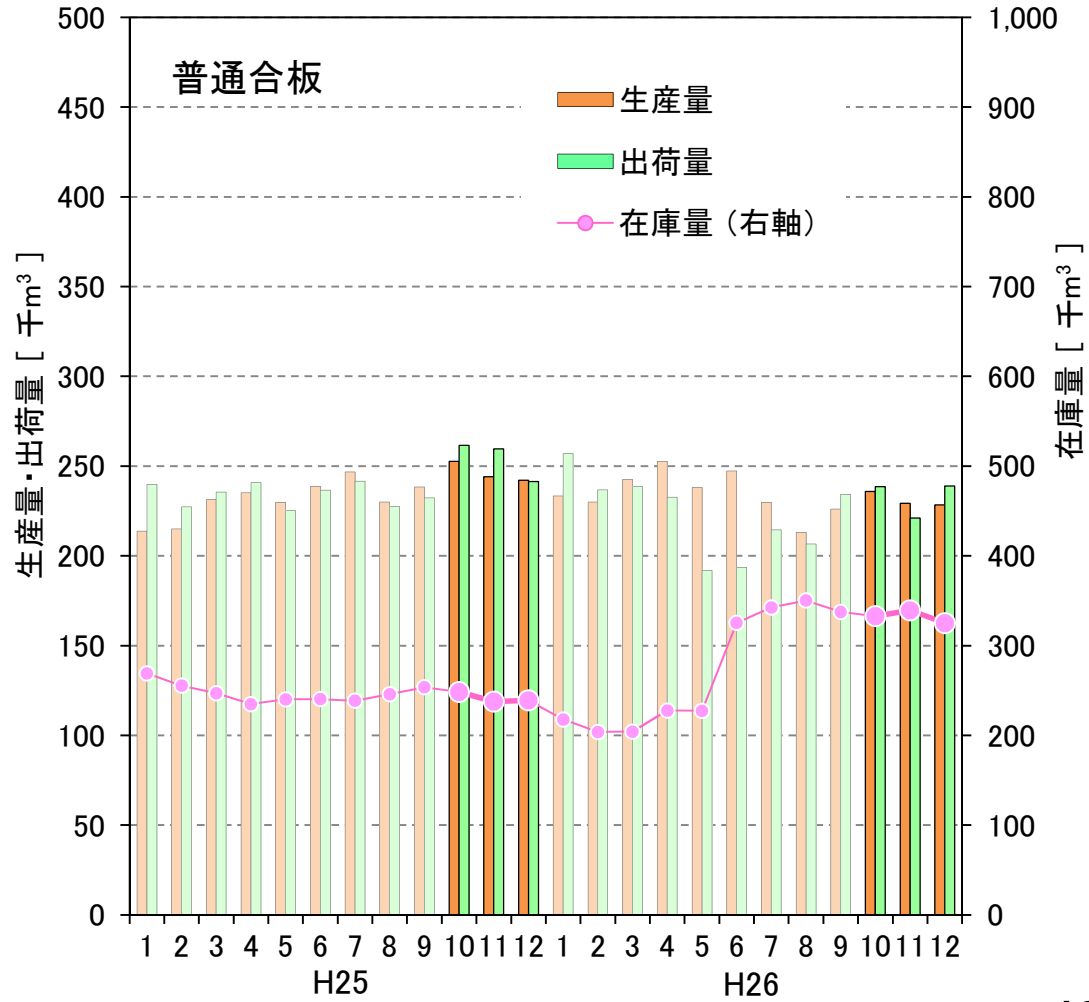
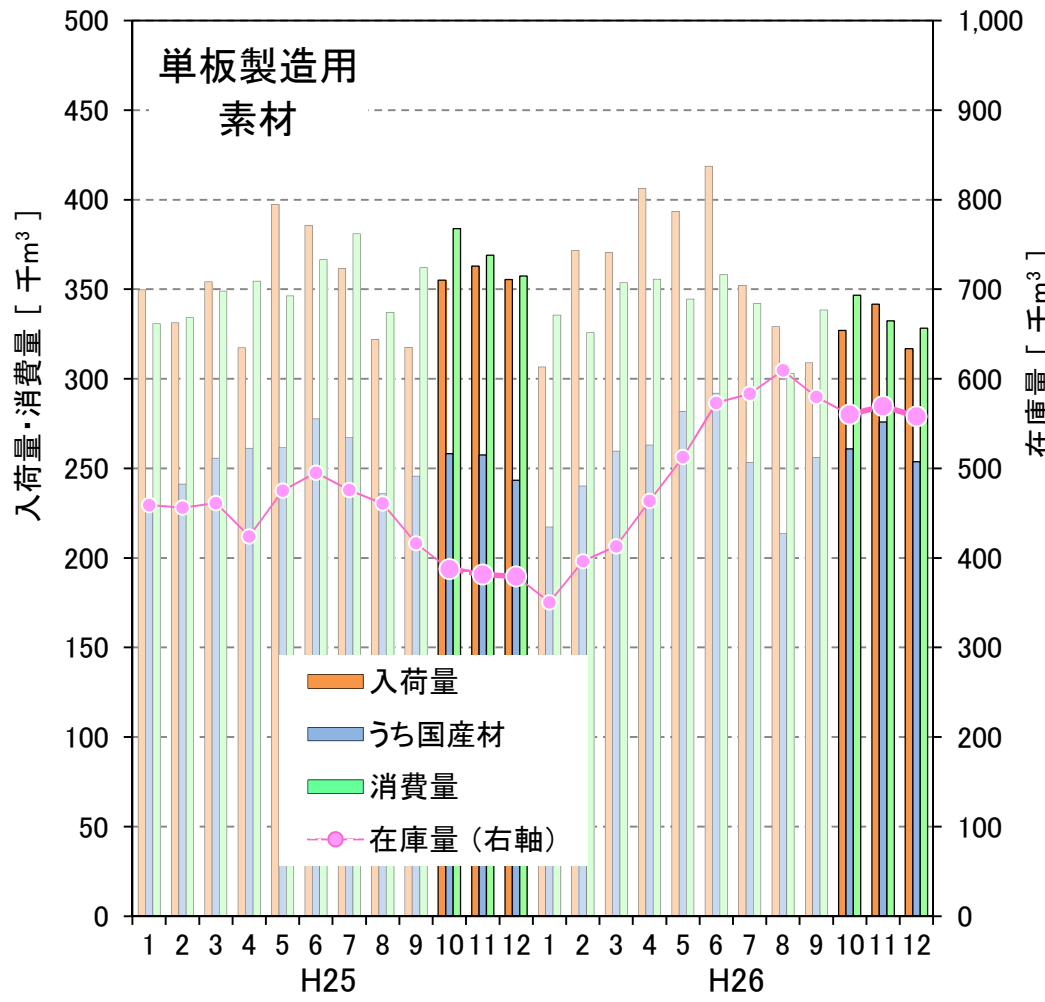


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成25年1月～26年12月）

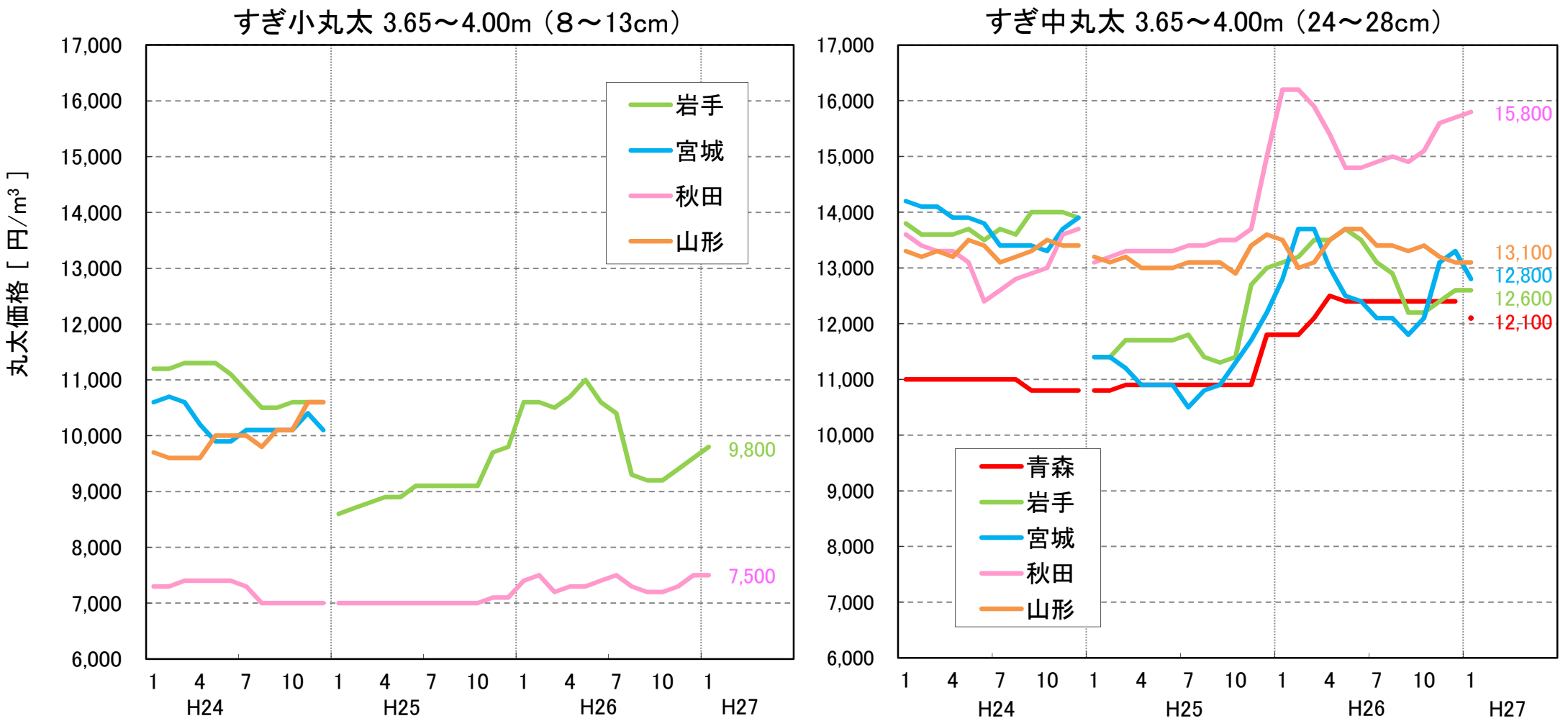
- 単板製造用素材の平成26年第4四半期の入荷量は、第3四半期より－2千m³/月、国産材は＋22千m³/月、消費量は＋8千m³/月。期間平均在庫量は－28千m³。前年同期比は、入荷量は－8%、国産材は＋4%、消費量は－9%、在庫量は＋47%。
- 普通合板の平成26年第4四半期の生産量は第3四半期より＋8千m³/月、出荷量は＋14千m³/月。期間平均在庫量は－11千m³。前年同期比は、生産量は－6%、出荷量は－8%、在庫量は＋38%。



出典：農林水産省「合板統計」

■ すぎ丸太価格の推移 (平成23年1月～平成27年1月)

- すぎ小丸太価格は、岩手は26年11月以降上昇が続き、秋田も26年11～12月に上昇した。
- すぎ中丸太価格は、青森は26年5月以降12月まで保合。岩手は26年11～12月に小幅な上昇。宮城は26年12月まで上昇したが1月に下降。秋田は4ヶ月連続上昇中。山形は小幅な動き。

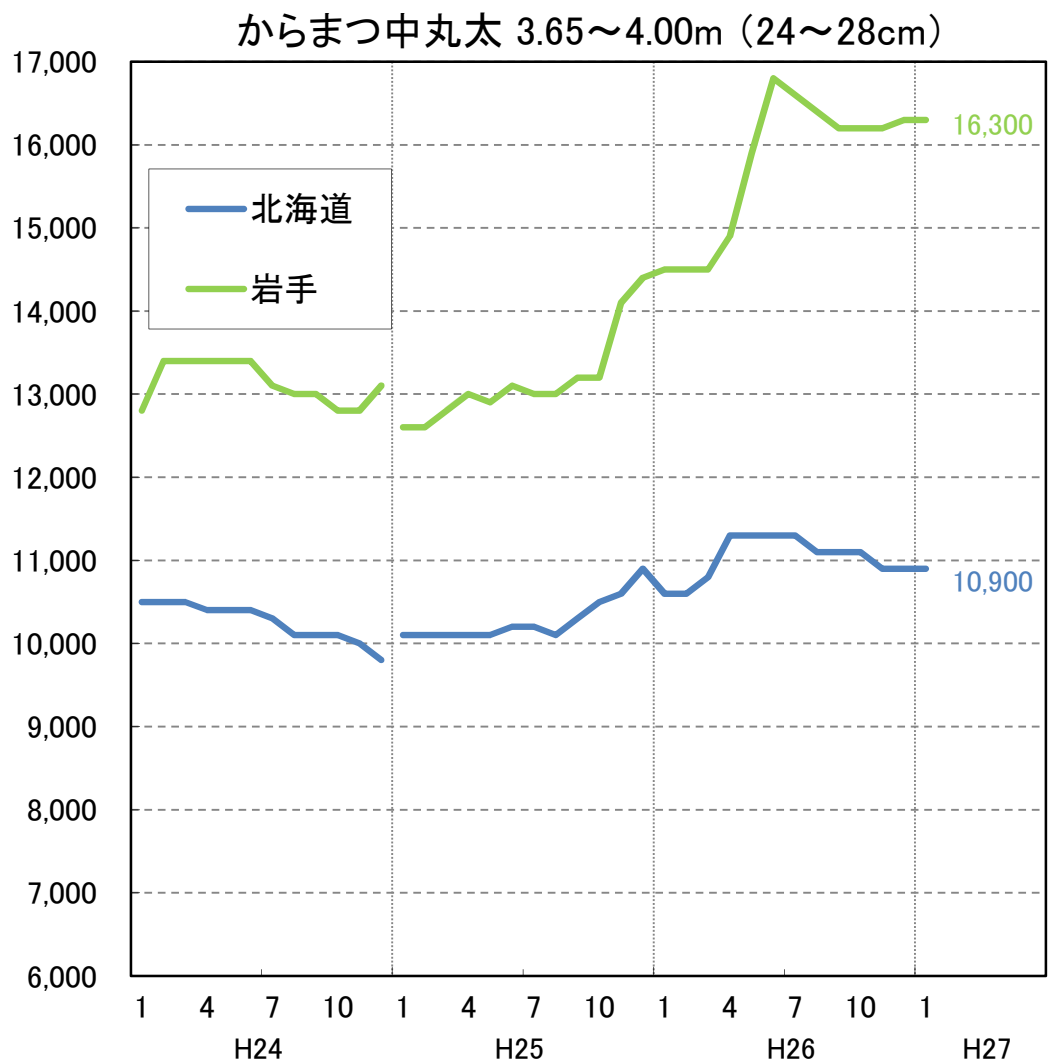
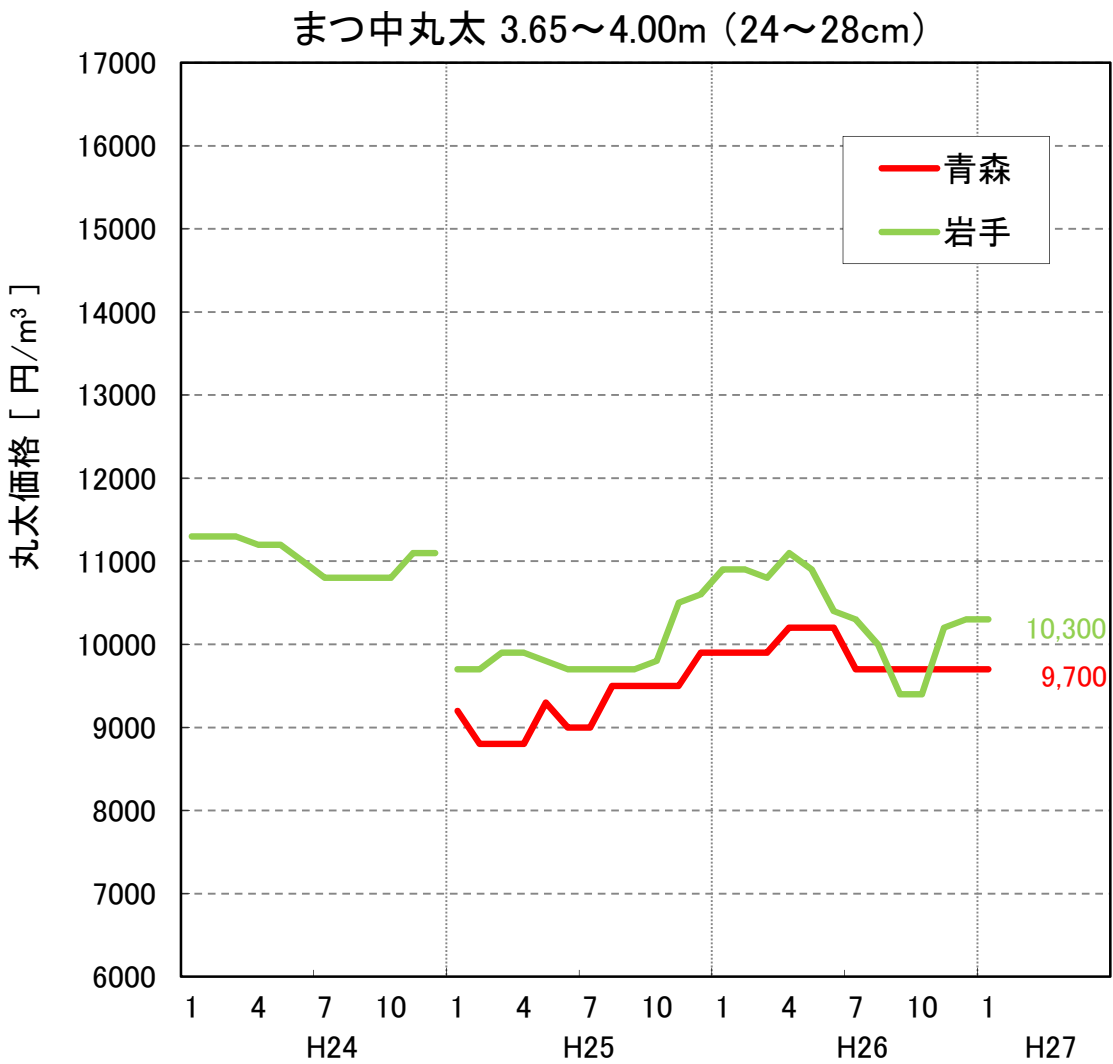


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。
 ※ 青森のすぎ中丸太は、平成27年1月に調査対象の変更があったため、それ以前のデータとは連続しない。

■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成23年1月～平成27年1月)

- まつ丸太価格は、青森は26年7月から保合。岩手は11～12月に上昇した。
- からまつ丸太価格は、岩手では26年12月に上昇、北海道は11月に下降し、価格差は5,400円/m³へ拡大。



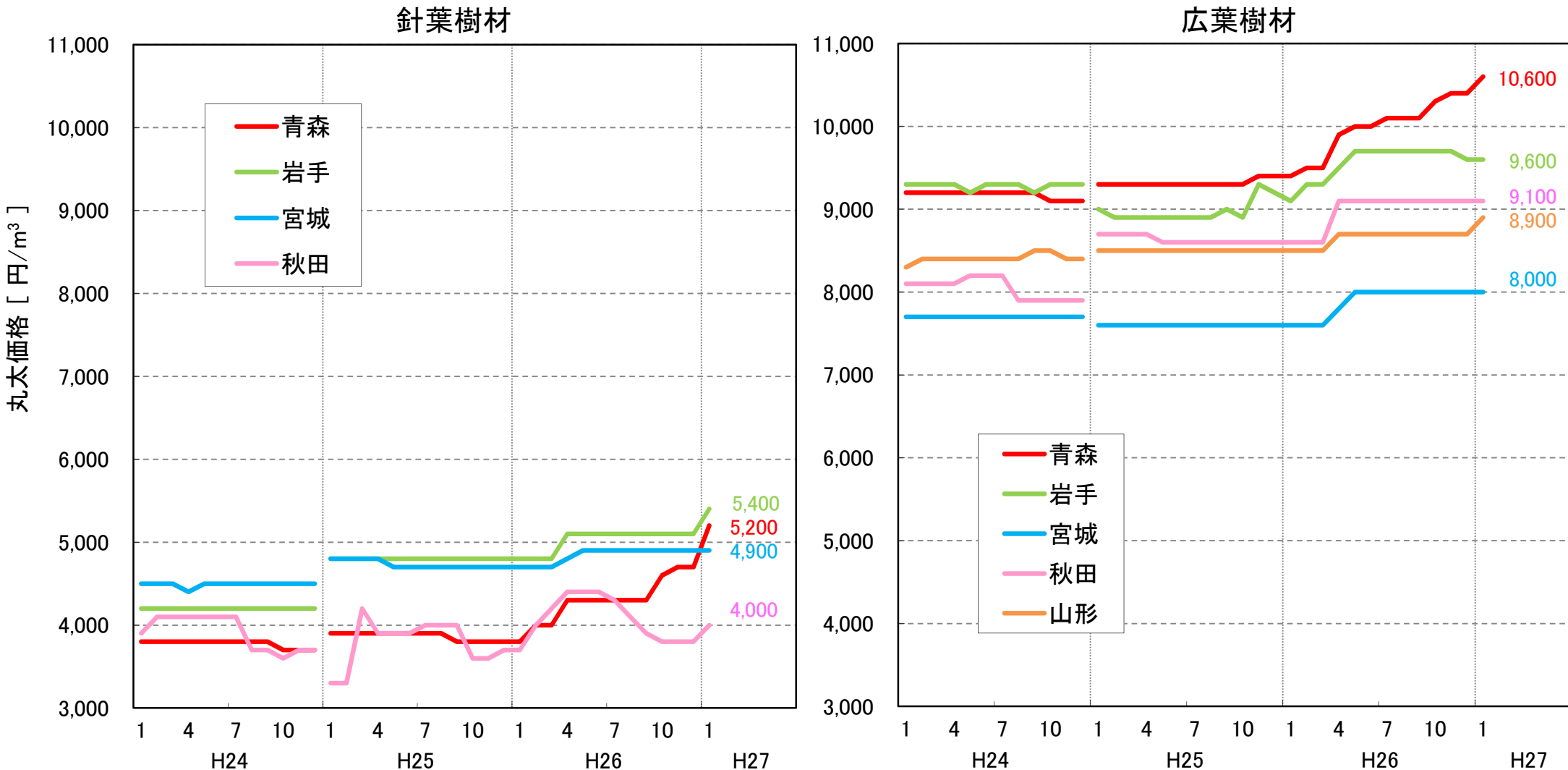
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■チップ用丸太価格の推移 (平成23年1月～平成27年1月)

- チップ用針葉樹丸太は、青森では26年2月以降上昇傾向。27年1月には青森、岩手、秋田で上昇した。
- 広葉樹丸太は、青森は25年11月以降上昇傾向がみられ、しばらく保合傾向が続いていた他4県でも、岩手で12月、山形で1月に動きがあった。



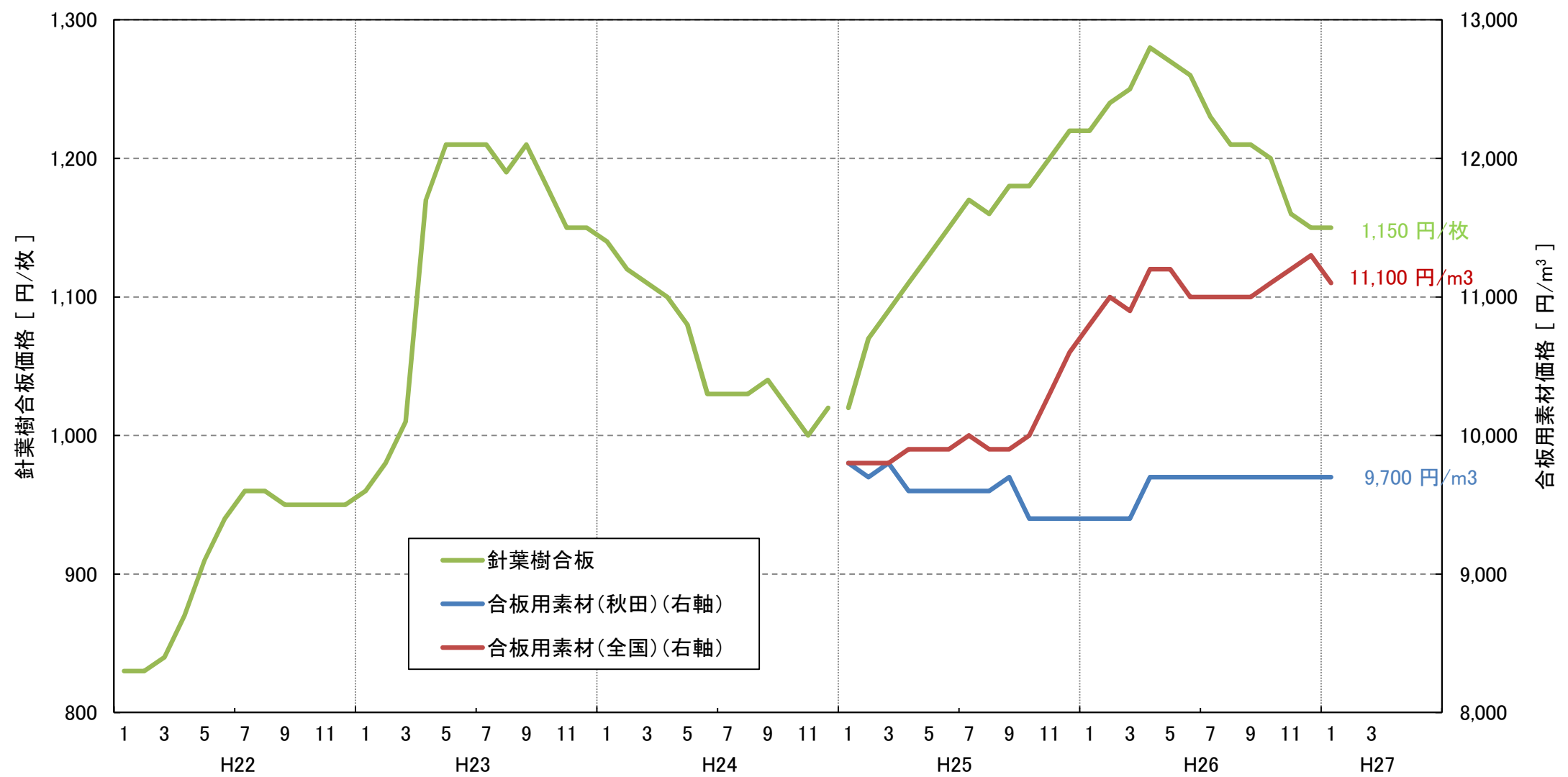
出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成22年1月～平成27年1月)

○ 針葉樹合板価格は、26年5月から12月まで下落傾向が続き、27年1月は25年6月と同水準になった。

○ 合単板用素材価格は、秋田では平成26年4月以降横ばいである。



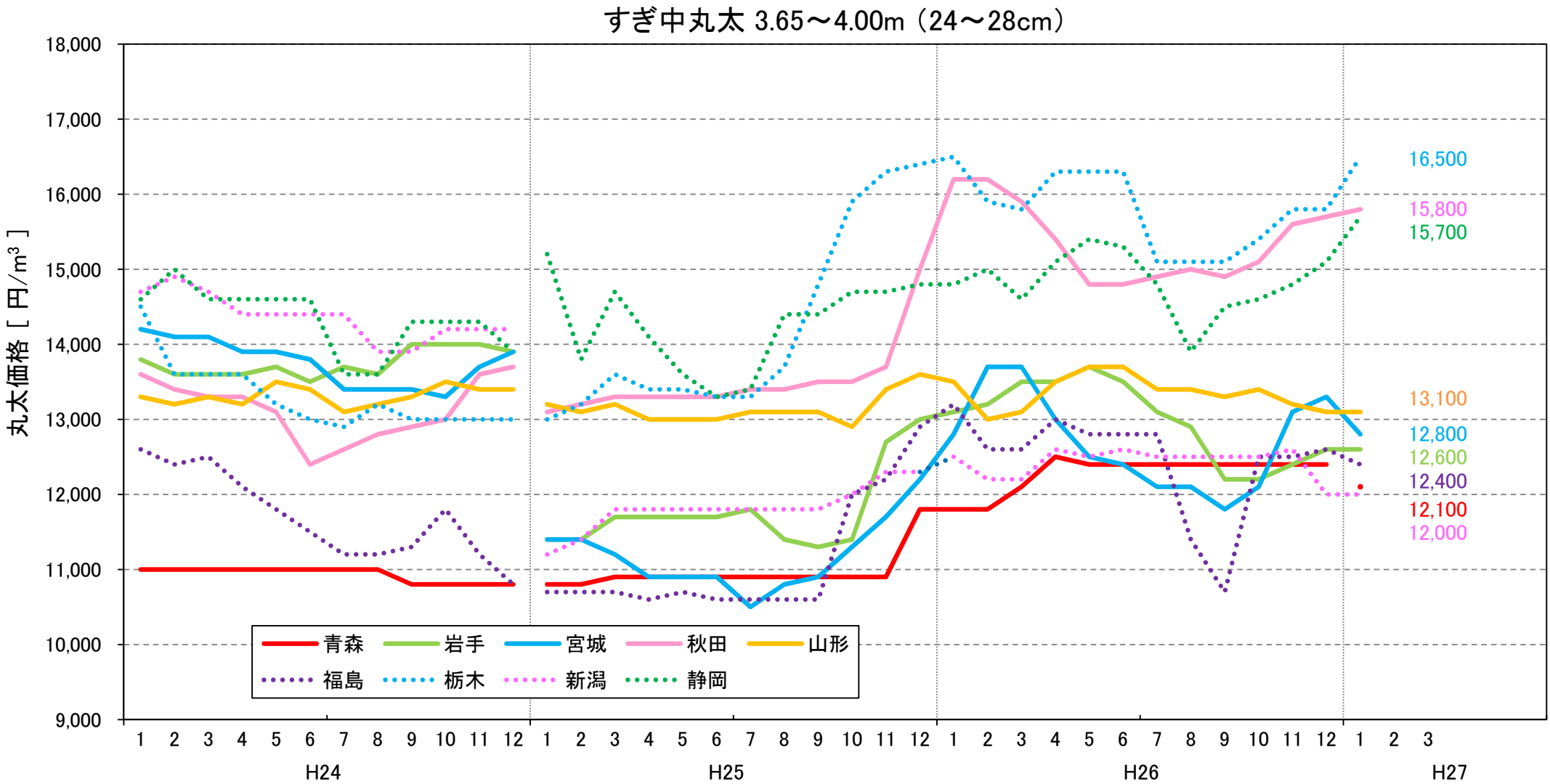
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 関東地方との木材価格の比較 (平成23年1月～平成27年1月)

○ 関東のすぎ中丸太の価格は、栃木と静岡が26年夏以降上昇傾向。
 ○ 秋田、栃木、静岡と他県との価格差が顕著である。



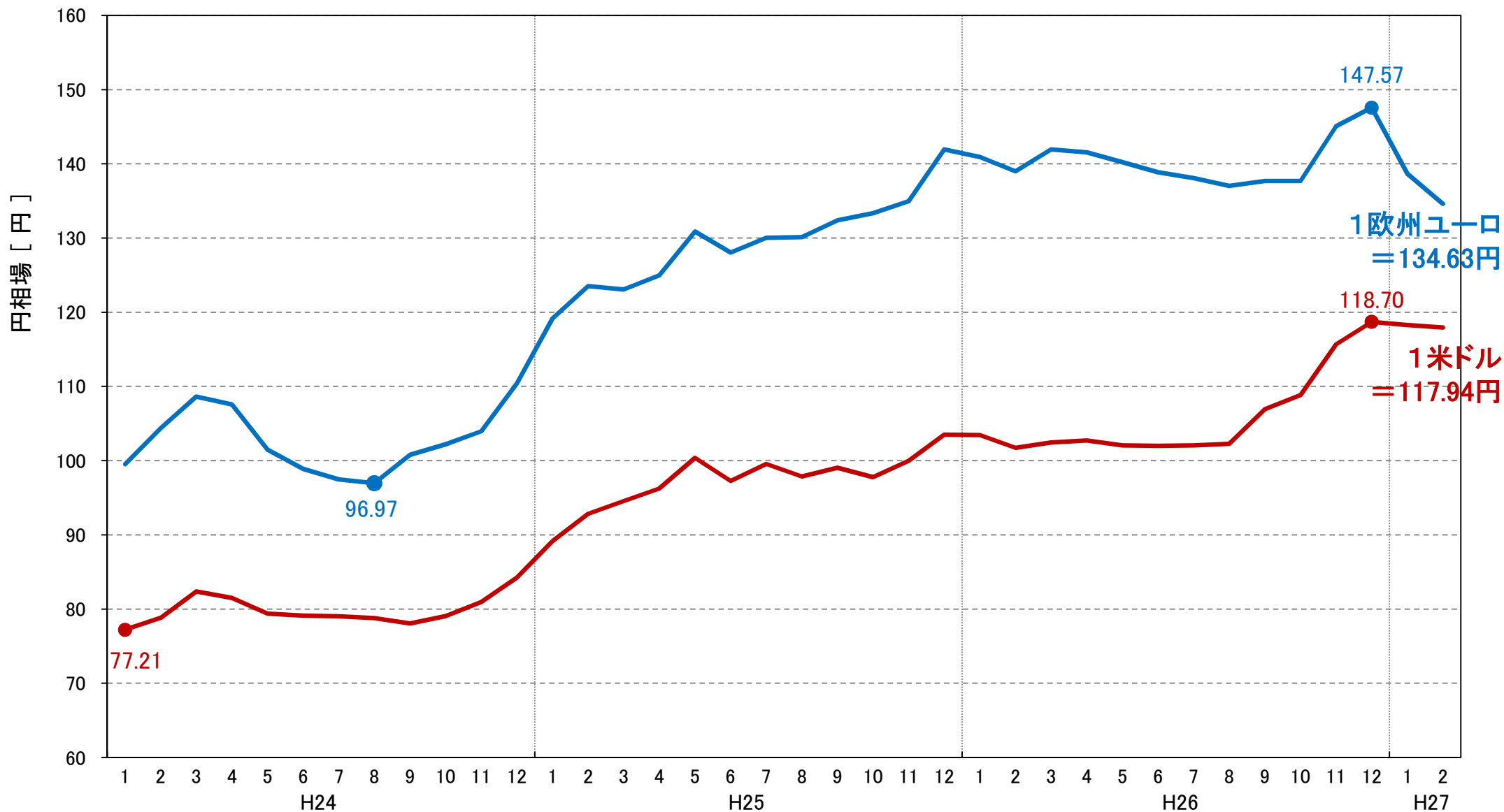
出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

- ※ 工場着価格。
- ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。
- ※ 青森のすぎ中丸太は、平成27年1月に調査対象の変更があったため、それ以前のデータとは連続しない。

為替レートの推移（平成24年1月～平成27年2月（6日まで））

○ 欧州ユーロは26年12月には147円まで上昇し、その後下降。

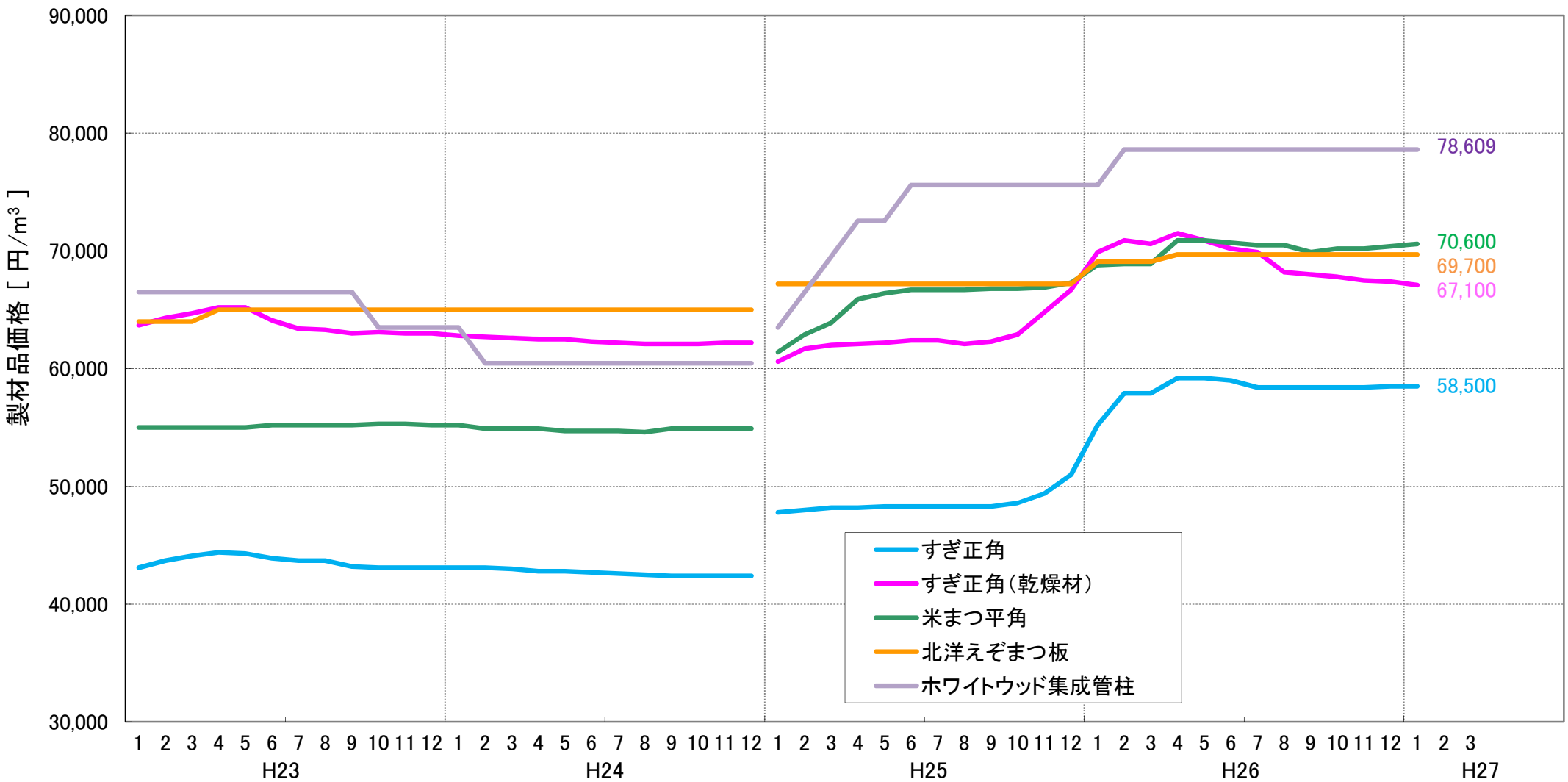
米ドルは、26年9月から12月まで上昇し、その後は118円前後で推移。



出典: Yahoo! ファイナンス(毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成23年1月～平成27年1月)

○ スギ正角(乾燥)が平成26年5月以降連続下落し、27年1月は26年4月比-6%。
 スギ正角、ホワイトウッド集成管柱、北洋エゾまつ板は保合。
 米まつは平成26年10月から上昇傾向に転じた。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

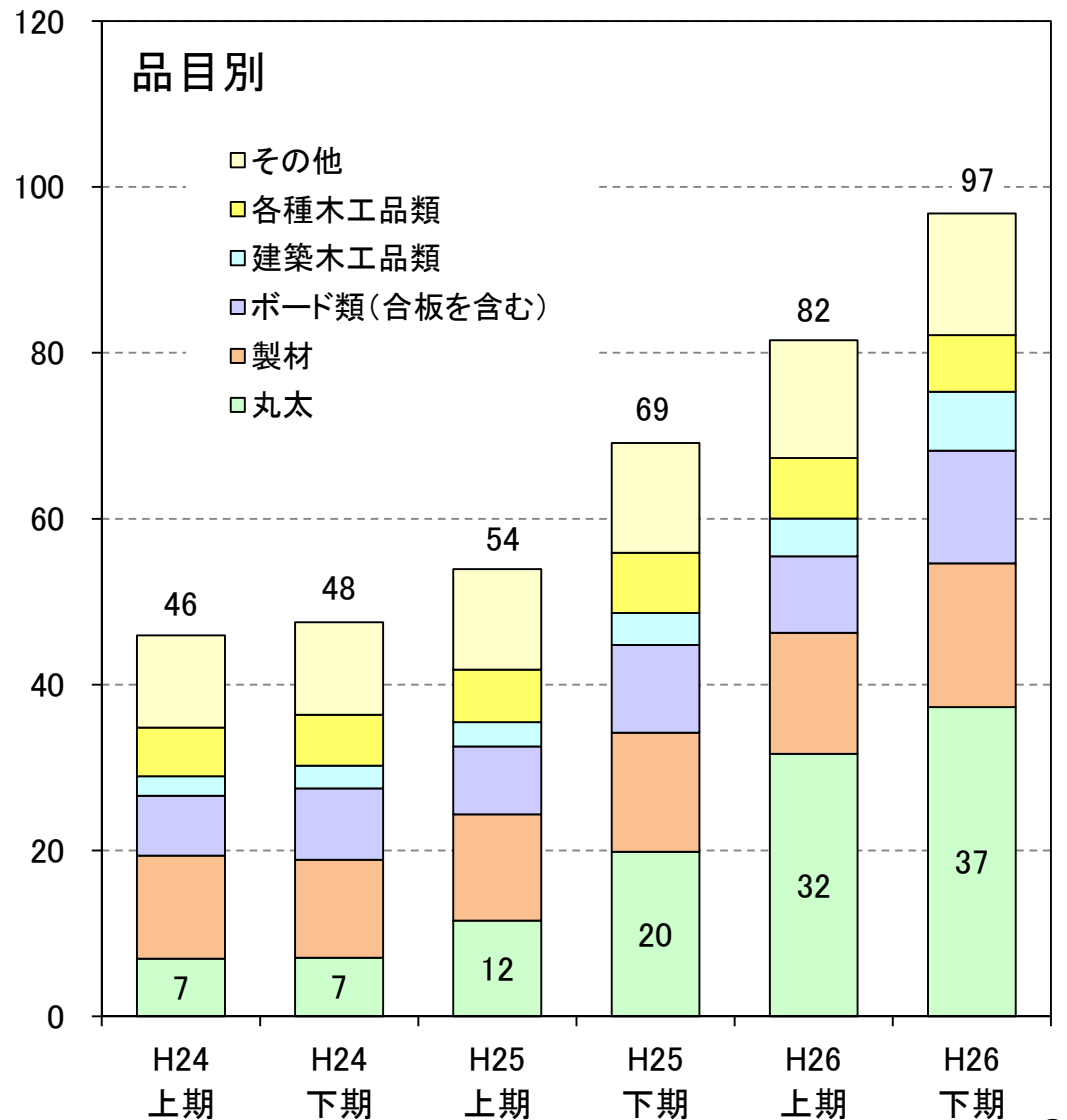
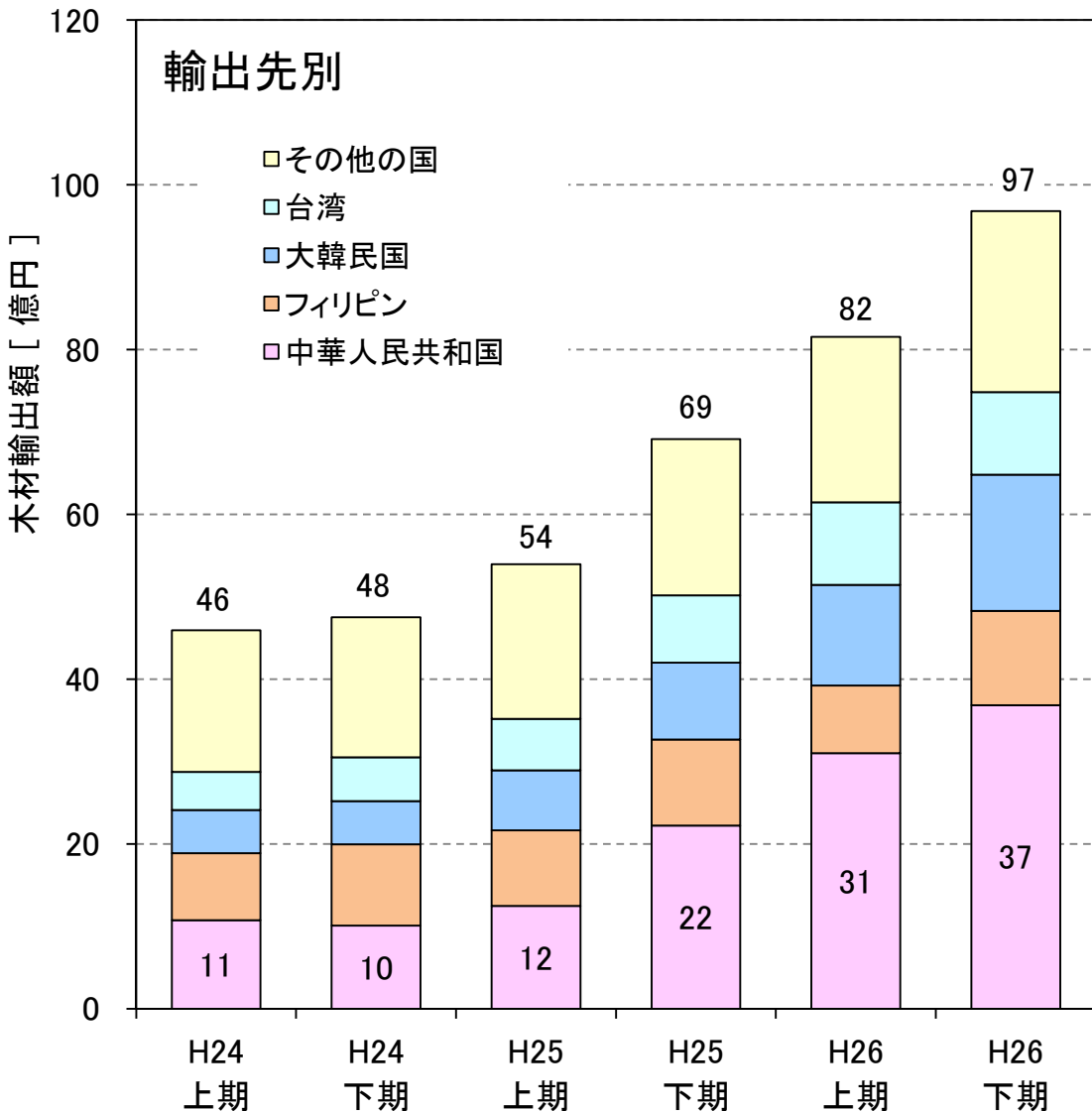
※ 価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移 (全国)

○ 木材輸出額は、平成24年の93億円から平成26年の178億円へと1.9倍に増えている。
 主要相手国は、中国、韓国、フィリピン、台湾。その4ヶ国で、24年は63%、26年は76%を占める。

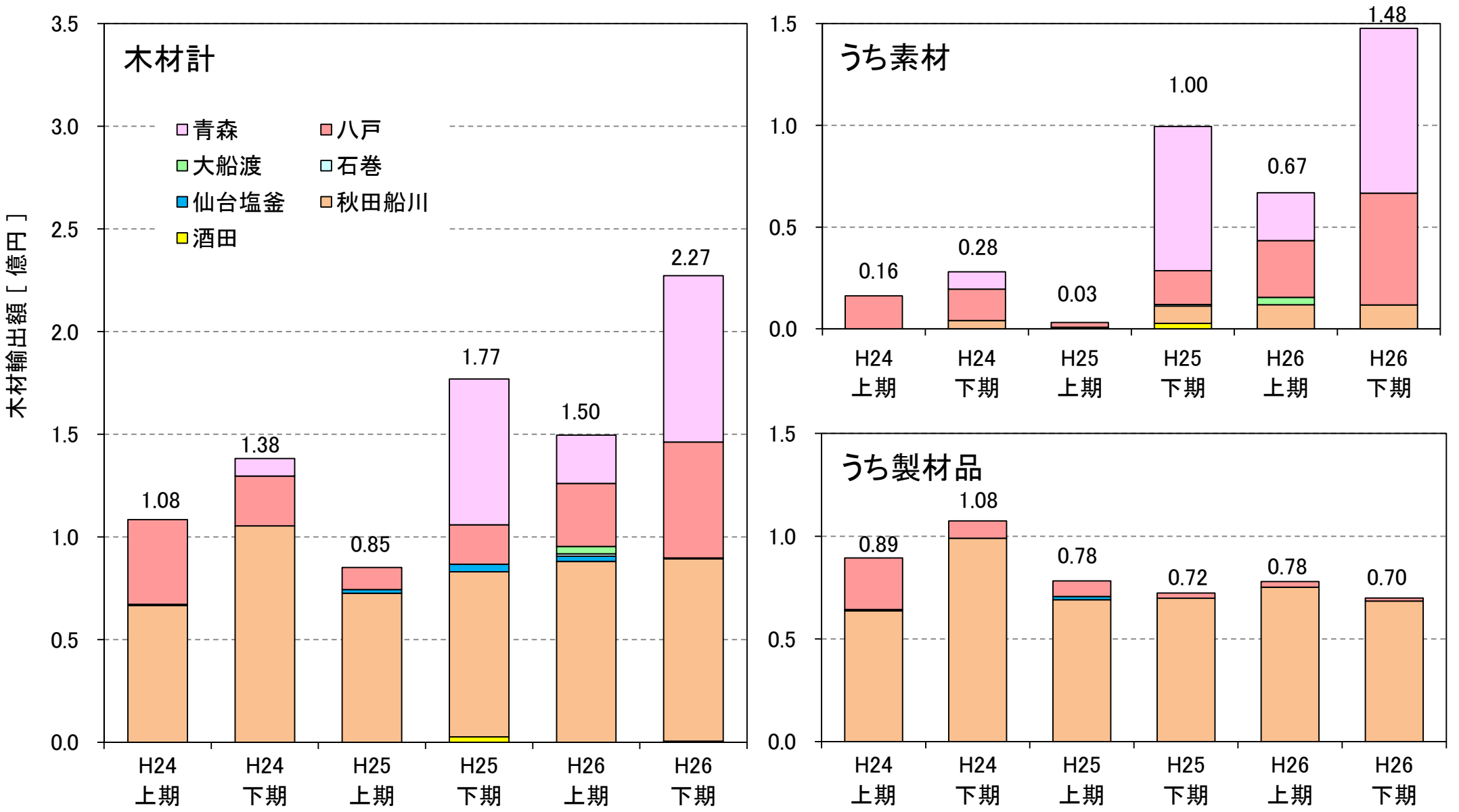
○ 平成26年の品目別輸出額は、平成24年比で丸太+391%、建築木工品類+129%、
 ボード類(合板含む)+44%、製材+32%、各種木工品類+18%、その他+30%となっている。



出典: 財務省「貿易統計」

■ 東北5県における木材輸出額の推移

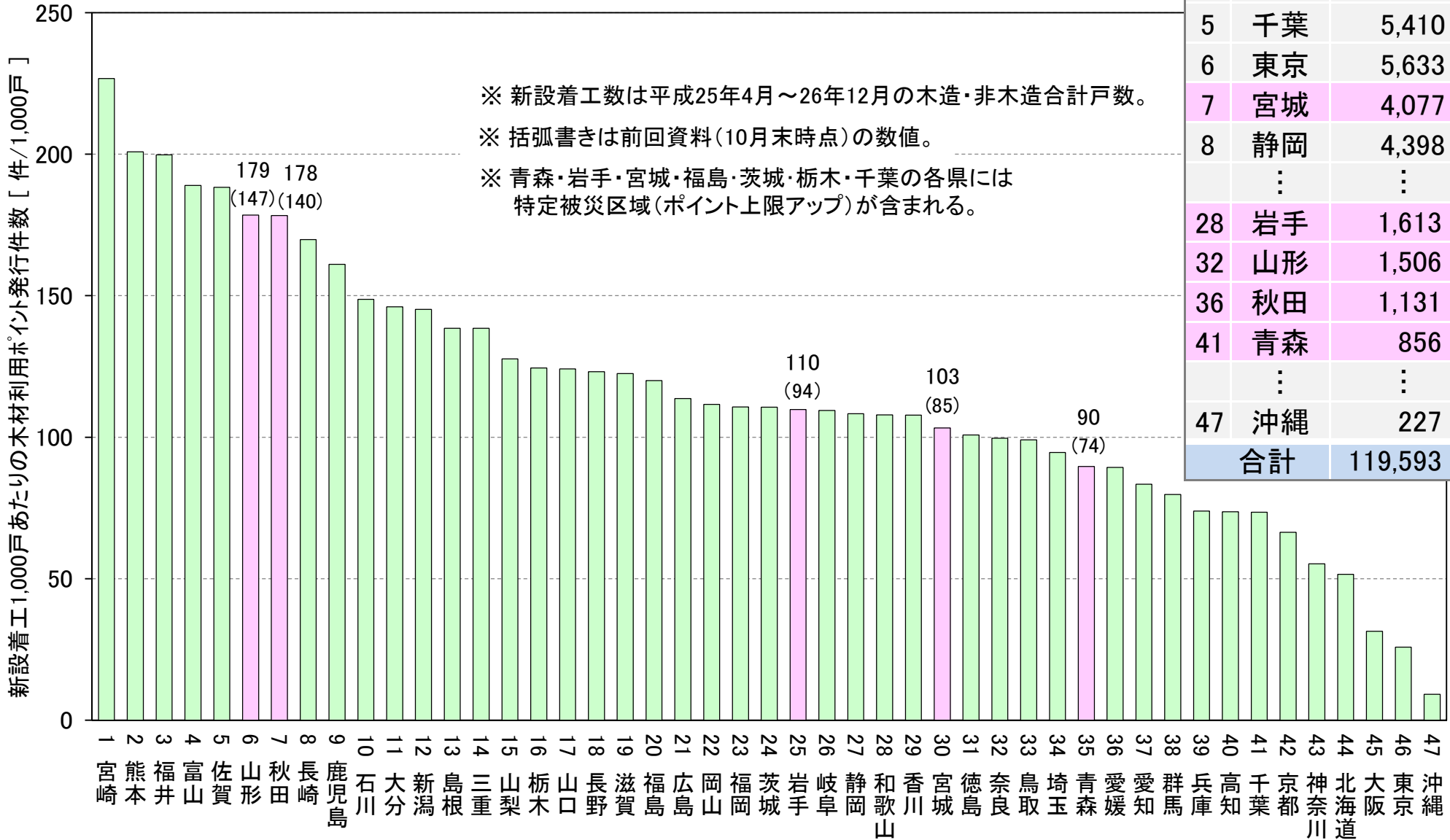
- 東北5県からの木材輸出は、秋田船川・青森・八戸の占める割合が高い。
- 素材輸出額は、平成26年は24年の4.9倍となった。なお、平成26年は青森・八戸が全体の87%を占めている。
- 製材品の輸出は秋田船川と八戸で大半を占め、25年上期以降は安定して推移している。



出典：財務省「貿易統計」

■ 木材利用ポイント累計発行状況 (平成27年1月末日現在)

- 累計発行ポイント順では宮城、岩手、山形の順だが、新設着工戸数あたりに換算すると、山形、秋田、岩手の順となる。
- 新設着工戸数あたりの発行件数は、10月末時点と比べて5県とも増加した。



発行P順	発行P	発行件数 (件)	発行P (百万P)
1	埼玉	8,606	2,569
2	愛知	7,647	1,995
3	福岡	6,713	1,981
4	神奈川	6,122	1,789
5	千葉	5,410	1,547
6	東京	5,633	1,533
7	宮城	4,077	1,529
8	静岡	4,398	1,252
	⋮	⋮	⋮
28	岩手	1,613	502
32	山形	1,506	451
36	秋田	1,131	352
41	青森	856	245
	⋮	⋮	⋮
47	沖縄	227	79
合計		119,593	35,380

出典：国土交通省「住宅着工統計」、木材利用ポイント事務局ホームページ